

年 報

令和六年 (2024年)



医療法人社団 吉徳会
あ さ ぎ り 病 院

Medical Corporation Yoshitoku-kai

目 次 Contents

■理念／組織図	1
■巻頭言	9
■診療データ	13
■診療部	25
眼科	
産婦人科	
内科	
健診科	
放射線室	
臨床検査室	
眼科検査室	
薬務室	
栄養管理室	
医療機器管理室	
医療相談/地域医療連携室	
■看護部	39
看護部	
外来管理	
眼科外来	
産婦人科外来	
内科外来	
2階病棟	
3階病棟	
手術室・中央材料室	
■事務部	49
事務部	
総務課 総務経理室	
総務課 情報システム室	
医事課	
診療情報管理室	
秘書室	

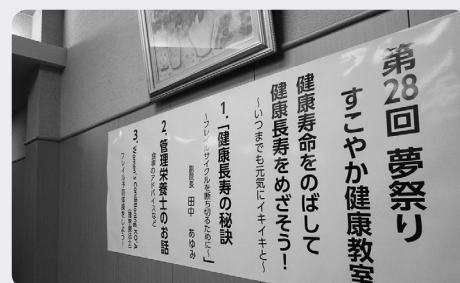
■医療安全管理室	57
医療安全管理室	
■委員会	59
感染防止	
医療の質向上・教育	
接遇癒し	
輸血療法	
褥瘡NST	
DPCコーディング・医事保険	
給食	
情報管理	
衛生	
倫理	
診療材料管理	
■学会・研究発表	73
学会発表 / 論文、掲載 / 講義・講演（医師/医師以外）	
■学会・研究会参加実績	81
学会・研究会参加実績（医師/医師以外）	
■院内研究発表会・研修会	85
院内研究発表会/院内研修会・講習会実施実績	
■病院行事	89
病院行事	

Idea

医療法人社団吉徳会の理念

人にやさしい医療を目指して

1. 吉徳会は、患者様が尊厳ある人生を送ることができるよう、安全な医療サービスを提供する使命があると考えています。
2. 吉徳会は、患者様中心の医療、保健、福祉を快適に受けられる場所でなければならないと考えています。
3. 吉徳会は、たえず医療水準の向上に努め、職員の各人が誇りと責任を持って働ける職場でなければならないと考えています。



令和6年 病院スローガン

「選ばれる病院になる」

Statement

of

医療法人社団吉徳会の基本方針



1. わたしたちは、人々の尊い生命を守り、なによりも「ひと」を大切にしたい心で24時間365日いつでも、安全な医療の提供を目指しています。
2. わたしたちは、新生児から高齢者まで、眼科、産婦人科、内科、各部門の専門を活かし、チーム医療に基づいた高度医療を提供しています。
3. わたしたちは、他の医療機関や施設との連携を密にし、専門知識の習得や技術の向上に努め、地域全体の医療水準の向上に寄与します。
4. わたしたちは、職員の人格形成を図り、役割に応じて働きやすい環境を作り、職員自らが判断し、責任ある行動をとれるよう努めています。

principles

病 院 概 要

Hospital outline

■ 病 院 名	医療法人社団 吉徳会 あさざり病院
■ 所 在 地	〒673-0852 兵庫県明石市朝霧台1120-2 TEL 078-912-7575(代) FAX 078-913-6763(代) E-mail : asagiri@asagiri-hp.or.jp URL : https://www.asagiri-hp.or.jp
■ 診 療 科 目	眼科・産科・婦人科・内科
■ 許可病床数	99床（一般病床）
■ 付 属 施 設	24時間保育所 1 棟 小児科クリニック（分院） 多目的ホール（ドリームドーム）
■ 施 設 基 準	急性期一般入院基本料 5 診療録管理体制加算 1 医師事務作業補助体制加算 1（25対 1） 急性期看護補助体制加算（50対 1） 急性期看護補助体制加算（急性期看護補助体制充実加算 2） 医療安全対策加算 2 医療安全対策地域連携加算 2 感染対策向上加算 2 感染対策向上加算 2（強化連携加算） 感染対策向上加算 2（サーベイランス強化加算） 患者サポート体制充実加算 ハイリスク妊娠管理加算 ハイリスク分娩管理加算 データ提出加算 2 の口 認知症ケア加算 2 せん妄ハイリスク患者ケア加算 短期滞手術等基本料 1 乳腺炎重症化予防ケア・指導料 婦人科特定疾患治療管理料 ニコチン依存症管理料 ハイリスク妊産婦協同管理料（Ⅰ） がん治療連携指導料 ハイリスク妊産婦連携指導料 1 薬剤管理指導料 医療機器安全管理料 1 HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定） 検体検査管理加算（Ⅱ） 胎児心エコー法 ロービジョン検査判断料 コンタクトレンズ検査料 1 CT撮影及びMRI撮影 外来化学療法加算 2 手術の休日加算 1、時間外加算 1 及び深夜加算 1 治療的角膜切除術（エキシマレーザーによるもの） 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの）） 緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術） 緑内障手術（濾過胞再建術（needle法）） 網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの） 毛様体光凝固術（眼内内視鏡を用いるもの） 網膜再建術 輸血管理料Ⅱ 麻酔管理料（Ⅰ） 外来ベースアップ評価料（Ⅰ） 入院ベースアップ評価料 多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術（選定療養） 入院時食事療養費（Ⅰ） 酸素の購入価格
■ 取 扱 保 険	健康保険・国民健康保険・労災保険・生活保護法・ 母体保護法・結核予防・原子爆弾被爆者一般疾病
■ 学 校 医	神戸学院大学
■ 認 定 施 設	日本眼科学会専門医研修施設認定病院 兵庫県地域周産期病院 難病指定医療機関 全日本病院協会認定人間ドック実施指定施設（日帰り・一泊） 臨床研修病院（北播磨総合医療センター） 無痛分娩認定施設

沿革

History

昭和22年		明石市上の丸に仲上医院開業
昭和45年	1月	明石市朝霧台に私立朝霧病院開設
	6月	基準寝具取得
昭和48年	12月	基準給食取得（以後増床の都度更新）
昭和49年	10月	病床数42床に増床
昭和52年	5月	病床数49床に増床
昭和61年	4月	藤原りつ子（現吉徳会名誉会長） 眼科診療部長就任
	9月	藤原卓夫（現吉徳会顧問） 副院長就任
	12月	病床数75床増築工事完了
昭和62年	1月	産婦人科、耳鼻咽喉科開設 私立あさざり病院に名称変更
平成元年	4月	医療法人社団吉徳会設立 初代理事長 仲上徳子
平成2年	5月	老人保健施設あさざりむつみ荘併設
	6月	理事長に藤原りつ子就任 院長に藤原卓夫就任
平成5年	3月	基準看護（基本看護1）取得
	5月	感染防止対策委員会設置
平成6年	5月	基準看護（特1類1）取得
	6月	医薬分業実施
	10月	新看護体系（3：1B 6：1介護）取得
	12月	全館スプリンクラー設置
平成7年	3月	在宅介護支援センターを あさざりむつみ荘内に併設
	7月	新看護体系（2.5：1B 10：1介護）取得
	12月	あさざりホームヘルプステーション併設
平成8年	6月	新看護体系（2.5：1A 10：1介護）取得 夜勤看護加算取得
	8月	老人保健施設あさざりむつみ荘へ あさざり在宅介護支援センター あさざりホームヘルプステーション 以上事業を委譲
平成9年	12月	訪問看護ステーションあさざり設置
平成11年	10月	居宅支援あさざり設置
平成12年	1月	臍帯血バンク登録
	4月	療養型24床増床
		デビット、クレジットカード導入
	7月	新病院完成 院内LAN導入（オーダリング開始）
平成13年	4月	日本医療機能評価機構 （複合病院種別A）認定病院
	5月	SPDシステム導入
	12月	MRI導入 ドック室、図書室、DVDシステム付 多目的ホール等完成
平成15年	1月	送迎バス運行開始（朝霧駅、明舞センター）

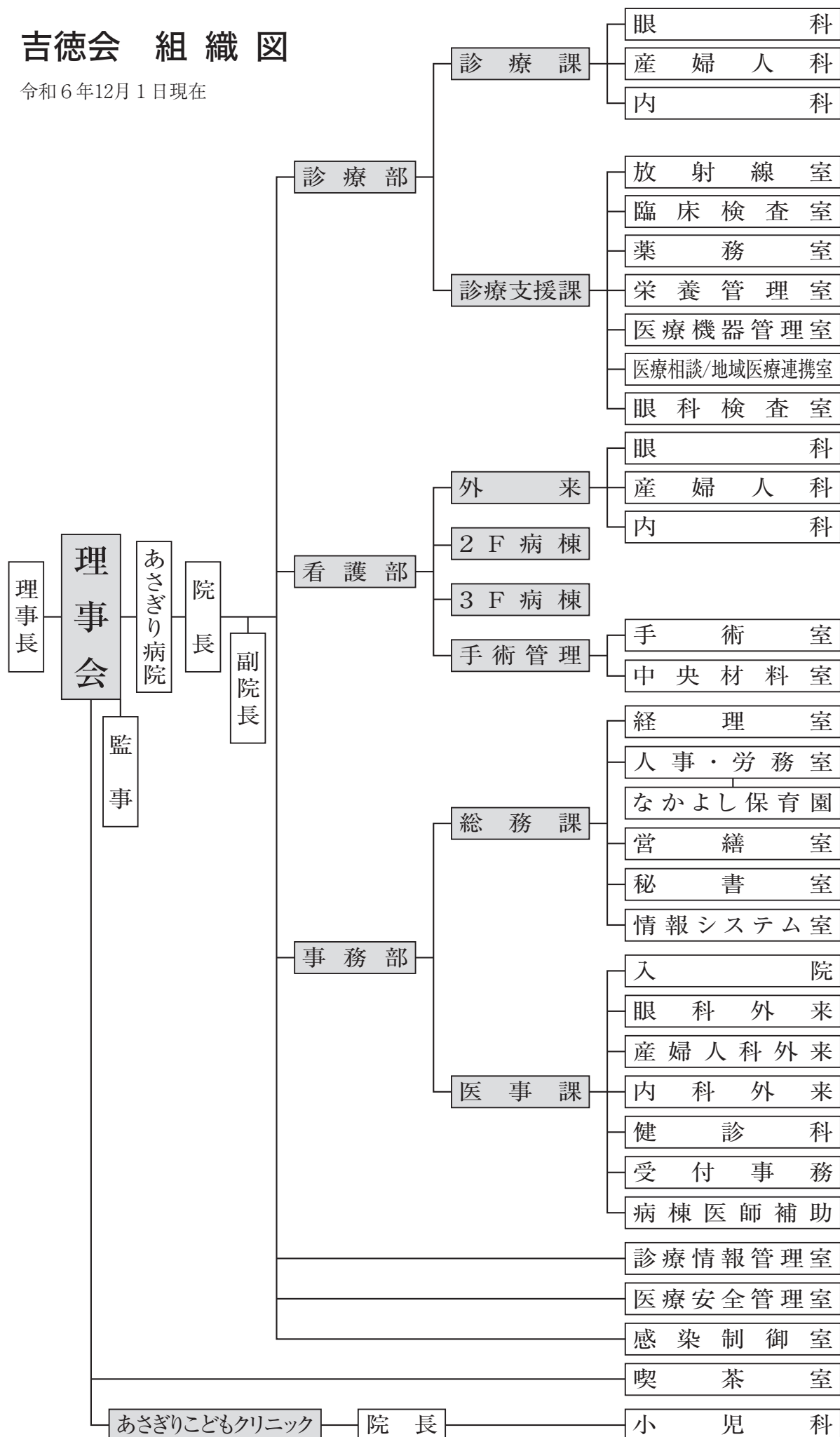
	3月	私立あさぎり病院から あさぎり病院に名称変更
■ 平成16年	2月	副院長に野原当就任
	3月	産婦人科病棟 (新生児室、授乳室、陣痛室) 改装
	7月	理事長に藤原卓夫就任 (院長兼任) 初代理事長 仲上徳子 逝去
■ 平成17年	10月	地域医療連携室設置
	11月	名誉会長に藤原りつ子就任
	1月	電子カルテシステム導入
	4月	総合診療科発足 (内科・外科を統合)
	9月	送迎バス新路線運行開始 (伊川谷方面)
	10月	人事考課制度導入
	12月	外来 (産婦人科、眼科) 移転改装 病棟眼科診察室新設
■ 平成18年	3月	病院機能評価更新審査受審 (Ver.5.0)
	4月	訪問看護部門、病院内へ移転
	5月	健診科開設
	6月	病院機能評価更新審査認定 療養病床を一般病床へ種別変更 (一般病床99床)
■ 平成19年	8月	全日本病院協会人間ドック実施 指定施設認定 (日帰り・一泊)
	12月	3階病棟改装
	1月	院長に野原当就任、 副院長に三村治就任
	2月	一般病棟入院基本料 (7 : 1) 取得
■ 平成20年	7月	会長に藤原りつ子就任
	11月	マルチスライス16列CT導入
	1月	眼科外来改装
	7月	DPC対象病院
■ 平成21年	9月	中央材料室改装
	8月	ドリームドーム竣工 あさぎりこどもクリニック 新規開業 なかよし保育園 移転
■ 平成23年	3月	先進医療 (多焦点眼内レンズ) 施設認定
	4月	禁煙外来開始
■ 平成26年	10月	総合診療科を内科外科へ名称変更
	4月	内科外科を内科へ名称変更
	7月	あさぎりこどもクリニック再開
■ 平成27年	10月	一般病棟入院基本料 (10 : 1)
	11月	新館空調内装リニューアル工事
■ 平成28年	2月	新版e-カルテ Newtons 2 導入
■ 平成29年	6月	4D超音波検査機器 VolusonE10導入
	5月	日帰り手術センター開設眼科外来改装
■ 平成30年	4月	4D超音波検査機器 VolusonE10P 8 導入
■ 平成31年	5月	3階病棟改修工事 (特別室設置)
	11月	兵庫県周産期医療協力病院認定
	4月	眼科医長に明石梓着任
■ 令和元年	5月	OCT手術顕微鏡RESCAN700導入
	6月	分娩監視装置更新

令和2年	8月	日立自動分析装置3100導入
	9月	院内ネットワーク環境刷新 CADDSolisPIBポンプ導入 分娩台更新 保育器インキュ i 追加 ゴールドマン視野計MT-325UD更新
	10月	超音波診断装置VolusonP 8 3 台更新
	12月	診断書作成管理支援「MEDI-Papyrus」導入
	2月	炭酸ガスレーザー更新 スペクトラリスHRA更新
	3月	あさぎりこどもクリニック院長に舟田俊平着任 SmartTableST-50 3 台導入
	4月	経鼻カメラGIF-1200N更新 パノラミックオブサルモスコープカリフォルニア導入
	5月	副理事長、眼科部長に明石梓就任 手術室12内装工事
	6月	眼科Web予約変更システム開始
	8月	旧館各科外来空調設備改修工事
	9月	2階分娩室換気設備更新
	10月	内科診療部長に明石健吾着任
令和3年	11月	高周波手術装置VI03更新
	1月	超音波画像診断装置 SONIMAGE HS 2 導入 骨塩定量装置 Dichroma Scan DCS-600EXV更新
	3月	鳥取大学医学部附属病院 提携医療機関登録 AeroDRシステム (Flat Panel Detector) 導入 自動麻酔記録装置 AR-U950更新
	4月	理事長に明石梓就任 院長に明石健吾就任
	5月	全身用X線CT装置 Supria GRANDE更新
	9月	血液ガス分析装置 エボック更新
	10月	SeavoPACS (医用画像保管システム) 導入
	12月	認定医療法人へ移行 眼圧計 ノンコンタクトトノ/パキメーター NT-530P更新 携帯型経腹エコー VscanAir導入
	1月	分娩監視装置 MT-610 (W) 4 台更新
	2月	新生児用コット すやすやコットKB-115A 11台更新
	3月	採血管準備装置 ipres fine導入 細隙灯顕微鏡 スリットランプ900BQV導入 重心動揺計 グラビコーダGW-31導入
	4月	生体情報モニター更新 体組成計 InBody770導入 PENTAXヒステロファイバースコープ+エンドアيسコープアイ導入 身長体重計 BSM370導入 中央採血室 新設
令和4年	5月	オンライン資格確認システム導入
	6月	内科産婦人科Web予約システム開始
	8月	高圧蒸気滅菌装置 RH-12EH更新 光干渉断層計 Canon Xephilio OCT-S 1 導入 病棟Wi-Fiサービス導入
	9月	新型コロナウイルスPCR検査装置 ID NOWインストールメント導入

	10月	X線骨密度測定装置 HorizonCi型導入
	11月	ゲティング 万能手術台 MEERA更新
	12月	外装塗装工事 4D超音波画像診断装置 Voluson Expert22導入 重心動揺計オプション ラバー負荷検査導入
令和5年	3月	あさぎりこどもクリニック 休止
	4月	ルミナスM22 IPLシステム導入 超音波画像診断装置 SONOVISTA GX30導入
	5月	内科外来検査室 改装工事 超音波画像診断装置 Aplio a Verifia導入
	6月	病院オリジナルキャラクター「あさぎりん」誕生 オートレンズメーター LM-1800P更新 CASIA用STAR Analysis（緑内障アプリケーション）導入
	7月	エコー動画館導入 （産婦人科外来エコー動画配信サービス） 院外処方箋運用切替アプリケーション導入
	9月	卓上遠心機 S300T導入
	11月	メディカルシーラー MS-452THP 3更新
	12月	コントラストグレアテスター CGT-2000更新
令和6年	1月	手術室空調設備改修工事 内視鏡スコープ（経鼻） GIF-1200N導入 視力表 スペースセービングチャート SSC-370TypeD更新
	3月	眼科用PDTレーザー装置更新
	4月	あさぎりこどもクリニック再開 あさぎりこどもクリニック院長に松本尚子着任
	7月	自動精算機 2台更新
	9月	新駐車場開設 超音波画像診断装置 Aplio a Verifia WH導入
	10月	再来受付機 2台更新
	11月	MRI更新 無痛分娩施設認定
令和7年	1月	新生児聴力検査装置 ネイタスアルゴ7i導入 眼科用手術台 メプロ5更新 鏡視下手術用モニタ CuratOR EX2721更新
	2月	生体情報モニタ Accumi1N17更新 麻酔器 A35更新
	3月	ステラッドNX滅菌器更新

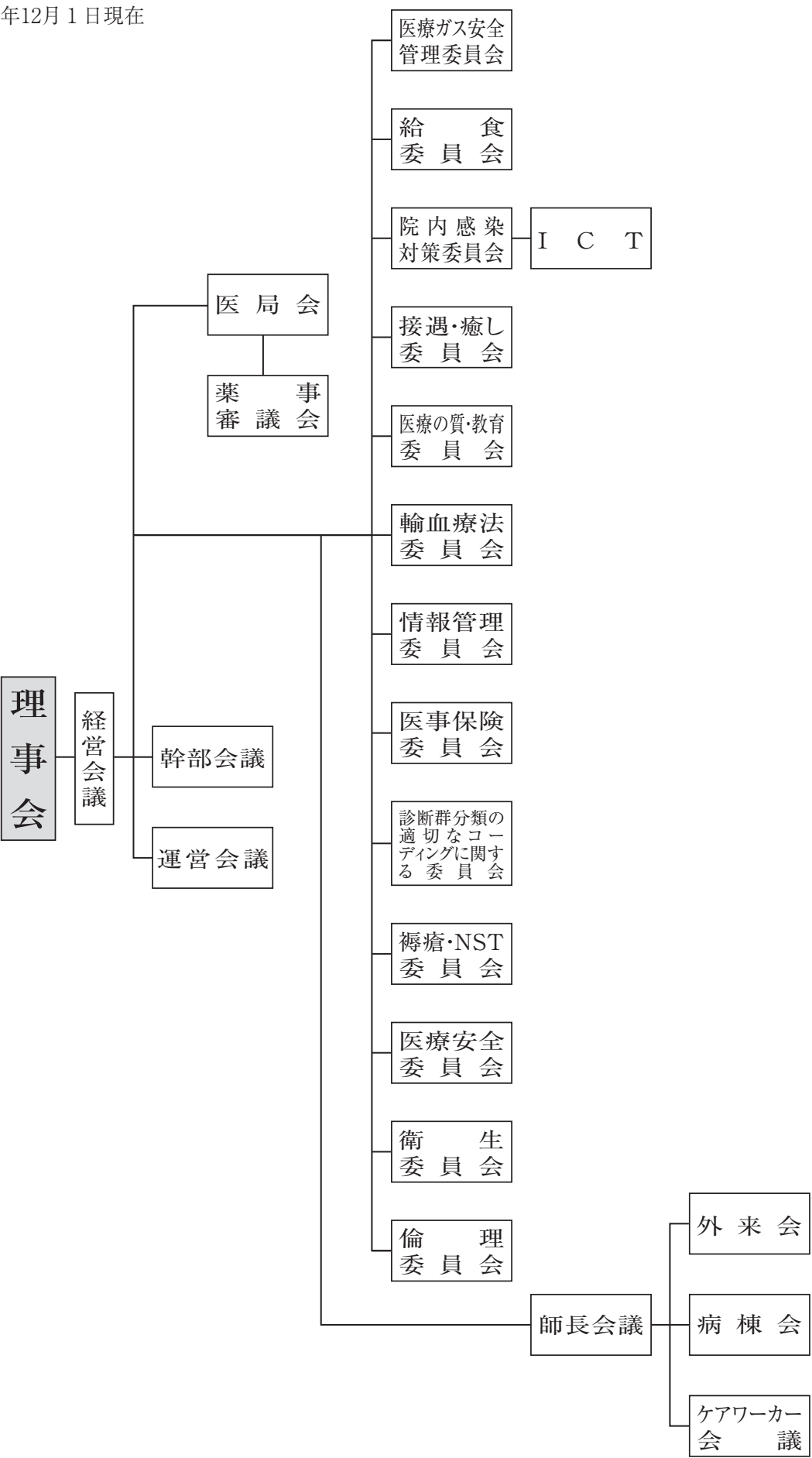
吉徳会 組織図

令和6年12月1日現在



あさぎり病院 委員会および会議組織図

令和6年12月1日現在



卷 頭 言

巻頭言

理事長 明 石 梓

2024年度、私たち「あさぎり病院」は「選ばれる病院になる」というスローガンのもと、患者様、近隣の医療機関、そして職員から信頼され、選ばれる存在となることを目指して歩んでまいりました。患者様には安心して診療を受けられる環境を整え、質の高い医療を提供すること。近隣の医療機関とは連携を深め、地域全体で支え合える医療体制を構築すること。そして、職員が働きがいを感じ、誇りを持って従事できる職場づくりを進めること。この三つの目標を柱に、病院運営を進めてまいりました。

施設面の改善に関しては病院の隣地に新たな駐車場を整備し、アクセス向上を図ることで、患者様がより通院しやすい環境を整えました。さらに、病院のホームページを刷新し、他の医療機関や患者様が必要な情報を迅速かつ分かりやすく取得できるよう工夫を行うと共に、新型のMRI機器を導入しより精度の高い検査が可能となりました。そして、職員が働きやすい環境を整えることにも注力し、「時間有給制度」の導入などそれぞれが働きやすい職場づくりを進めています。

2025年を迎え、医療現場は依然として厳しい状況に直面しています。世界的な情勢の不安定化や国内の物価高騰、さらには診療報酬の改定により、医療機関を取り巻く環境はますます複雑化しています。

医療の質を維持し、さらなる向上を目指すためには、医療従事者同士の「繋がり」が不可欠です。また、病院が地域のニーズを現実的かつ的確に把握し、自院の強みを活かす戦略、工夫が重要と考えます。こうした課題に向き合いながら、私たちは思考と歩みを止めることなく、より良い医療の提供を目指し取り組んでまいります。

2025年度もあさぎり病院をどうぞよろしくお願い申し上げます。

診療データ

令和6年(2024年) 診療データ

●外来患者数

2024年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
内科	新患	44	37	47	70	50	43	48	45	58	49	39	57	587	49
	初診	520	515	645	430	513	530	681	540	564	649	556	657	6,800	567
	再診	1,509	1,533	1,440	1,498	1,407	1,418	1,430	1,409	1,387	1,411	1,348	1,446	17,236	1,436
	月合計	2,073	2,085	2,132	1,998	1,970	1,991	2,159	1,994	2,009	2,109	1,943	2,160	24,623	2,052
2024年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
眼科	新患	144	136	154	171	177	169	147	123	140	153	129	161	1,804	150
	初診	1,658	1,628	2,222	1,842	2,041	1,824	2,013	1,620	1,816	1,891	1,642	2,072	22,269	1,856
	再診	2,448	2,298	2,228	2,343	2,219	2,533	2,166	2,199	2,318	2,573	2,254	2,272	27,851	2,321
	月合計	4,250	4,062	4,604	4,356	4,437	4,526	4,326	3,942	4,274	4,617	4,025	4,505	51,924	4,327
2024年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
産婦人科	新患	58	67	68	55	61	57	57	66	57	79	90	60	775	65
	初診	349	377	458	281	308	308	422	365	402	453	388	396	4,507	376
	再診	1,535	1,503	1,662	1,621	1,631	1,605	1,706	1,728	1,672	1,719	1,621	1,674	19,677	1,640
	月合計	1,942	1,947	2,188	1,957	2,000	1,970	2,185	2,159	2,131	2,251	2,099	2,130	24,959	2,080
2024年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
全科	新患	246	240	269	296	288	269	252	234	255	281	258	278	3,166	264
	初診	2,527	2,520	3,325	2,553	2,862	2,662	3,116	2,525	2,782	2,993	2,586	3,125	33,576	2,798
	再診	5,492	5,334	5,330	5,462	5,257	5,556	5,302	5,336	5,377	5,703	5,223	5,392	64,764	5,397
	月合計	8,265	8,094	8,924	8,311	8,407	8,487	8,670	8,095	8,414	8,977	8,067	8,795	101,506	8,459

※上記患者数には、コロナワクチン及びインフルワクチン接種患者、電話再診患者は含まない

2024年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
コロナワクチン接種		27	29	17	0	0	0	0	0	0	42	59	32	206	17
2024年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
インフルワクチン接種		4	1								325	388	146	864	173
2024年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
電話再診		4	12	12	4	8	9	3	5	5	3	4	11	80	7

●入院患者数

2024年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
入院患者数		275	272	295	322	332	305	312	295	316	315	322	339	3,700	308
退院患者数		256	271	302	308	339	313	311	289	315	321	325	350	3,700	308
入院患者延数		1,480	1,632	1,776	1,824	2,021	1,806	1,771	1,709	1,818	1,606	1,595	1,810	20,848	1,737
平均在院日数		7.1	7.3	7.3	7.3	7.6	7.8	7.7	7.4	6.9	6.6	6.0	6.0	—	7.1

※入院退院数には1日入院を含む

※平均在院日数は、旧短期滞在手術基本料3に該当し5日以内に退院した患者を抜いた日数を掲載

●手術件数

2024年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
眼科		328	318	324	358	371	370	360	284	286	350	316	340	4,005	333.8
産婦人科		27	29	28	28	27	23	25	27	29	29	37	33	342	28.5
内科		4	5	7	11	4	7	2	6	6	5	2	6	65	5.4
合計		359	352	359	397	402	400	387	317	321	384	355	379	4,412	367.7

※眼科は眼数で集計

●全身麻酔件数

2024年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
全科合計		8	6	10	7	9	8	11	10	9	12	9	8	107	9

●分娩件数

2024年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
分娩	娩	54	53	60	66	62	60	58	67	83	61	70	71	765	64
	初産婦	27	24	30	28	32	31	26	38	33	27	36	35	367	31
	経産婦	27	29	30	38	30	29	32	29	50	34	34	36	398	33
	男児	27	28	27	38	39	34	25	37	47	31	33	35	401	33
	女児	27	25	32	28	23	25	31	30	36	28	37	36	358	30
	緊急CS	3	6	8	9	5	4	6	6	5	8	7	8	75	6
	選択CS	12	10	10	8	10	5	13	5	9	8	16	5	111	9
	無痛分娩	18	26	28	31	30	29	21	36	37	28	28	42	354	30
死産		0	0	1	0	0	1	2	0	0	2	0	0	6	1
流産		5	3	4	5	3	8	3	11	6	9	5	12	74	6

※帝王切開、流産で手術施行の場合は再掲(手術件数にも含む)

●主な検査件数

2024年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
上部消化管内視鏡検査		179	191	202	164	193	186	222	179	198	228	212	206	2,360	196.7
(内、経口内視鏡数)		80	84	78	81	79	65	92	74	81	88	97	93	992	82.7
(内、経鼻内視鏡数)		99	107	124	83	114	121	130	105	117	140	115	113	1,368	114.0
下部消化管内視鏡検査		13	18	15	18	12	13	13	15	16	20	7	16	176	14.7
胃透視		19	17	16	5	12	14	8	12	12	13	10	11	149	12.4
胸部X線検査		369	366	412	613	424	439	513	440	455	501	478	481	5,491	457.6
マンモグラフィ		109	137	171	44	55	82	116	108	120	157	146	111	1,356	113.0
MRI検査		87	75	82	83	96	99	89	93	55	0	102	111	972	81.0
CT検査		107	108	104	143	96	107	117	99	126	125	96	105	1,333	111.1

※X線検査には透視・造影・マンモグラフィを含まない。MRI: 9/18~10/31に機器の入れ替えあり。

■眼科手術件数月別集計

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	平均
白 内 障	219	217	201	243	242	269	254	188	179	265	241	212	2,730	227.5
日帰り手術	106	85	77	89	72	80	82	41	76	81	62	73	924	77.0
2焦点レンズ使用数	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0.3
3焦点レンズ使用数	3	6	3	2	6	5	8	2	8	1	5	1	50	4.2
トーリックレンズ使用数	30	30	28	24	26	18	22	16	16	42	32	29	313	26.1
網 膜 ・ 硝 子 体	36	27	44	34	45	27	35	28	40	27	27	50	420	35.0
硝子体単独手術	10	12	14	13	13	10	11	14	15	12	5	16	145	12.1
白内障同時手術	26	15	30	21	32	17	24	14	25	15	22	34	275	22.9
緑 内 障	17	13	11	8	15	9	9	5	12	9	9	10	127	10.6
緑内障単独手術	8	10	10	6	9	4	7	4	10	6	8	5	87	7.3
白内障硝子体同時手術	9	3	1	2	6	5	2	1	2	3	1	5	40	3.3
その他内眼部	0	4	3	2	2	2	0	4	2	3	0	0	22	1.8
斜 視	6	11	14	6	11	11	11	10	11	6	10	9	116	9.7
翼 状 片	5	6	9	8	8	3	8	6	6	7	4	8	78	6.5
眼 瞼 形 成	14	20	15	31	20	25	20	19	12	15	5	13	209	17.4
眼 瞼 そ の 他	4	4	9	5	7	6	7	5	2	4	2	3	58	4.8
涙 道	11	6	9	13	12	6	9	6	8	8	9	8	105	8.8
結 膜 ・ 強 膜	0	2	1	3	2	0	3	6	2	1	0	1	21	1.8
その他外眼部	1	1	0	0	2	1	0	0	1	0	1	1	8	0.7
角 膜	11	5	4	3	5	11	4	7	9	5	6	23	93	7.8
屈 折 矯 正	4	2	4	2	0	0	0	0	2	0	2	2	18	1.5
手 術 計	328	318	324	358	371	370	360	284	286	350	316	340	4,005	333.8
硝子体内注射(アトール2mg)	111	110	92	107	99	103	76	65	71	68	53	70	1,025	85.4
硝子体内注射(アトール8mg)	0	0	0	1	6	12	20	23	28	38	31	32	191	15.9
硝子体内注射(ハビースモ)	33	44	43	50	57	66	33	60	56	50	50	61	603	50.3
硝子体内注射(ベオビュ)	1	7	4	3	1	5	4	1	8	3	2	8	47	3.9
硝子体内注射(ラニブスマブ)	4	2	0	5	2	2	1	3	2	3	2	2	28	2.3
硝子体内注射(ルゼンテス)	5	3	2	2	0	1	3	2	0	0	0	5	23	1.9
硝子体内注射(マキユエド)	1	3	2	2	0	4	2	2	4	0	0	0	20	1.7
硝子体内注射(ケナコルト)	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	2	3	10	0.8
硝子体内注射(セフタジム)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.1
注 射 計	155	169	143	170	165	193	140	156	171	165	140	181	1,948	162.3
レーザー(網膜光凝固)	18	22	28	26	30	31	23	13	19	33	16	20	279	23.3
レーザー(YAGレーザー)	36	27	44	28	36	51	32	28	26	43	30	34	415	34.6
レーザー(PDT)	1	1	7	2	4	5	3	4	2	1	3	5	38	3.2
レーザー(虹彩切除)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	3	0.3
レ ー ザ ー 計	55	50	79	56	70	87	59	45	47	79	49	59	735	61.3
手術・治療合計	538	537	546	584	606	650	559	485	504	594	505	580	6,688	557.3

■眼科手術件数

合計4,005眼

■内眼部（内眼部 合計3,299眼）

●白内障手術

全2,730眼

・PEA

小計2,660眼

PEA	3 眼	PEA+IOL挿入術+睫毛電気分解術	6 眼
PEA+IOL挿入術	2,639 眼	PEA+IOL縫着術(強膜内固定術)+硝子体切除術	3 眼
PEA+IOL挿入術+ICL摘出術	1 眼	PEA+硝子体切除術	2 眼
PEA+IOL挿入術+硝子体切除術	6 眼		

・PEA（多焦点・3焦点）

小計53眼

PEA+IOL挿入術（選定療養・3焦点IOL）	50 眼	PEA+IOL挿入術（選定療養・多焦点IOL）	3 眼
-------------------------	------	-------------------------	-----

・ECCE

小計1眼

ECCE+IOL挿入術	1 眼
-------------	-----

・IOL関連

小計16眼

IOL整復術	8 眼	IOL二次挿入術	1 眼
IOL摘出術+IOL二次挿入術	4 眼	IOL二次縫着術（強膜内固定術）	2 眼
IOL摘出術+IOL二次縫着術（強膜内固定術）	1 眼		

●網膜・硝子体手術

全420眼

（うち単独手術 145眼 白内障同時手術 275眼）

・硝子体茎離断術

小計380眼

硝子体茎離断術	116 眼	硝子体茎離断術+PEA+IOL縫着術・強膜内固定術	9 眼
硝子体茎離断術+ECCE	1 眼	硝子体茎離断術+PPL	1 眼
硝子体茎離断術+ICCE+IOL縫着術・強膜内固定術	1 眼	硝子体茎離断術+PPL+IOL縫着術・強膜内固定術	2 眼
硝子体茎離断術+IOL挿入術（IOL摘出術を含む）	3 眼	硝子体茎離断術+虹彩切除術	1 眼
硝子体茎離断術+IOL摘出術	4 眼	硝子体茎離断術+全周網膜輪状締結術+PEA+IOL挿入術	1 眼
硝子体茎離断術+IOL縫着術・強膜内固定術（IOL摘出術を含む）	51 眼	硝子体茎離断術+部分ブロンベ縫着術	1 眼
硝子体茎離断術+PEA	2 眼	硝子体茎離断術+部分ブロンベ縫着術+PEA+IOL挿入術	1 眼
硝子体茎離断術+PEA+IOL挿入術	186 眼		

・増殖性硝子体網膜症手術

小計19眼

増殖性硝子体網膜症手術	3 眼	増殖性硝子体網膜症手術+全周網膜輪状締結術+PEA+IOL挿入術	1 眼
増殖性硝子体網膜症手術+PEA+IOL挿入術	10 眼	増殖性硝子体網膜症手術+全周網膜輪状締結術+PPL	1 眼
増殖性硝子体網膜症手術+全周網膜輪状締結術	3 眼	増殖性硝子体網膜症手術+全周網膜輪状締結術+虹彩切除術+IOL摘出術	1 眼

・硝子体置換術	小計6眼		
硝子体置換術	6 眼		
・硝子体切除術	小計1眼		
硝子体切除術+虹彩整復・瞳孔形成術	1 眼		
・硝子体その他	小計5眼		
硝子体注入・吸引術	4 眼	硝子体注入・吸引術+虹彩整復・瞳孔形成術	1 眼
・網膜	小計9眼		
全周網膜輪状締結術	4 眼	部分プロンベ縫着術	5 眼
●緑内障手術	全127眼	(うち単独手術 87眼 白内障硝子体同時手術 40眼)	
・トラベクトミー	小計60眼		
トラベクトミー(hook-TLO)	29 眼	トラベクトミー(hook-TLO)+硝子体茎離断術+IOL縫着術+強膜内固定術(IOL摘出術を含む)	1 眼
トラベクトミー(hook-TLO)+PEA+IOL挿入術	27 眼	トラベクトミー(hook-TLO)+硝子体茎離断術+PEA+IOL縫着術+強膜内固定術	1 眼
トラベクトミー(hook-TLO)+PEA+IOL挿入術+虹彩前癒着剥離術	1 眼	トラベクトミー(hook-TLO)+毛様体光凝固術(CycloG6使用)+PEA+IOL挿入術	1 眼
・トラベクレクトミー	小計4眼		
トラベクレクトミー	4 眼		
・治療用インプラント挿入術	小計37眼		
緑内障治療用プリザーフロマイクロシャント挿入術	32 眼	緑内障治療用アーメドインプラント挿入術+PEA+IOL挿入術	1 眼
緑内障治療用アーメドインプラント挿入術	3 眼	緑内障治療用アーメドインプラント挿入術+硝子体茎離断術+PEA+IOL縫着術(強膜内固定術)	1 眼
・緑内障ドレーン挿入術	小計7眼		
緑内障手術(白内障併用ドレーン挿入術)	7 眼		
・緑内障その他	小計19眼		
毛様体光凝固術(CycloG6使用)	12 眼	濾過胞再建術(ニードリング)	4 眼
毛様体光凝固術(CycloG6使用)+眼内異物除去術	1 眼	虹彩切除術	2 眼
●その他内眼部手術	全22眼		
虹彩整復・瞳孔形成術	21 眼	眼内異物除去術	1 眼

■外眼部(外眼部 合計595眼)

●斜視手術	全116眼		
・前転法	小計11眼		
内直筋前転術	2 眼	内直筋短縮術	9 眼
・後転法	小計72眼		
外直筋後転術	44 眼	内直筋後転術	20 眼
外直筋後転術+下直筋後転術	3 眼	上直筋後転術	1 眼
外直筋後転術+強膜縫合術	1 眼	下直筋後転術	1 眼
外直筋後転術+内直筋後転術	2 眼		
・前後転法	小計16眼		
外直筋後転術+内直筋短縮術	14 眼	外直筋短縮術+内直筋後転術+眼瞼内反症手術(眼瞼下制筋前転法)	1 眼
外直筋短縮術+内直筋後転術	1 眼		
・後転法+斜筋手術	小計4眼		
外直筋後転術+下斜筋前方移動術	1 眼	上直筋後転術+下斜筋後転術	1 眼
外直筋後転術+上直筋後転術+下斜筋後転術	1 眼	上直筋後転術+下直筋癒着剥離術+下斜筋後転術	1 眼
・斜筋手術	小計3眼		
下斜筋後転術	2 眼	下斜筋前方移動術	1 眼
・眼筋移動術	小計10眼		
外直筋後転術+下直筋後転術+1筋腹鼻側移動術	1 眼	上下直筋外方移動術	1 眼
外直筋後転術+下直筋後転術+鼻側移動術	1 眼	下直筋1筋腹鼻側移動術	1 眼
内直筋後転術+下直筋後転術+3分の2筋腹鼻側移動術	1 眼	下直筋後転術+1筋腹鼻側移動術	1 眼
内直筋後転術+下直筋後転術+鼻側移動術	2 眼	下直筋後転術+鼻側移動術	1 眼
内直筋短縮術+上直筋1筋腹鼻側移動術	1 眼		
●眼瞼形成手術	全209眼		
眼瞼下垂症手術(眼瞼挙筋前転法)	121 眼	眼瞼内反症手術(眼瞼下制筋前転法)+外眦形成術	2 眼
眼瞼下垂症手術(その他のもの)	28 眼	眼瞼内反症手術+内眦形成術	2 眼
眼瞼下垂症手術(自由診療)	2 眼	眼瞼縫合術	1 眼
眼瞼内反症手術(切開法)	44 眼	眼瞼癒着痕拘縮形成術	1 眼
眼瞼内反症手術(縫合法)	2 眼	兎眼矯正術	2 眼
眼瞼内反症手術(眼瞼下制筋前転法)	4 眼		
●眼瞼その他の手術	全58眼		
巨大霰粒腫摘出術	32 眼	眼瞼腫瘍摘出術	11 眼
睫毛電気分解術	14 眼	眼瞼結膜腫瘍摘出術	1 眼

●涙道手術		全105眼	
涙管シリコンチューブ挿入術（涙道内視鏡使用）	99 眼	涙腺腫瘍摘出術	1 眼
涙嚢鼻腔吻合術	4 眼	涙点閉鎖術	1 眼
●翼状片		全78眼	
翼状片手術	78 眼		
●結膜・強膜手術		全21眼	
結膜腫瘍摘出術	9 眼	結膜縫合術	1 眼
結膜嚢形成手術（部分形成）	9 眼	強膜縫合術	1 眼
結膜下異物除去術	1 眼		
●その他外眼部手術		全8眼	
眼窩脂肪ヘルニア切除術	7 眼	眼窩内異物除去術	1 眼

■角膜手術（角膜合計93眼）

●角膜手術		全93眼	
PRK	92 眼	顕微鏡下角膜抜糸術	1 眼

■屈折矯正手術（屈折矯正合計18眼）

●屈折矯正手術		全18眼	
ICL	18 眼		

■硝子体内注射件数 合計1,948眼

●硝子体内注射		全1,948眼	
アイリニア・2mg	1025 眼	ルセンチス	23 眼
アイリニア・8mg	191 眼	マキュエイド	20 眼
バビースモ	603 眼	ケナコルト	10 眼
ベオビュ	47 眼	セフタジジム	1 眼
ラニビズマブ	28 眼		

■レーザー治療件数 合計735眼

●レーザー		全735眼	
YAGによる後発白内障切裂術	415 眼	光線力学療法（PDT）	38 眼
網膜光凝固術	279 眼	レーザー虹彩切除術	3 眼

眼科手術・治療総合計 6,688眼

■産婦人科分娩・手術・検査件数月別集計

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	平均
分 娩 件 数	54	53	60	66	62	60	58	67	83	61	70	71	765	63.8
初 産 婦	27	24	30	28	32	31	26	38	33	27	36	35	367	30.6
経 産 婦	27	29	30	38	30	29	32	29	50	34	34	36	398	33.2
手 術 件 数	27	29	28	28	27	23	25	27	29	29	37	33	342	28.5
産 科 手 術	20	19	23	23	18	19	23	23	21	25	28	26	268	22.3
帝 王 切 開 術	15	16	18	17	15	9	19	11	14	16	23	13	186	15.5
流 産 手 術	5	3	3	4	3	7	1	8	6	6	5	9	60	5.0
子 宮 頸 管 縫 縮 術	0	0	1	1	0	2	0	1	1	0	0	1	7	0.6
そ の 他	0	0	1	1	0	1	3	3	0	3	0	3	15	1.3
婦 人 科 手 術	7	10	5	5	9	4	2	4	8	4	9	7	74	6.2
開 腹 手 術	0	0	1	0	1	0	1	0	0	2	0	0	5	0.4
腹 腔 鏡 手 術	0	2	0	0	3	0	0	1	0	0	1	0	7	0.6
子 宮 鏡 手 術	4	5	2	2	2	2	1	0	5	0	6	3	32	2.7
子 宮 脱 手 術	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
腔 式 手 術	2	2	2	2	2	0	0	3	2	2	2	2	21	1.8
外 陰 ・ そ の 他	1	0	0	1	1	2	0	0	1	0	0	2	8	0.7
検 査 件 数	21	17	18	20	16	17	18	13	20	22	11	20	213	17.8
コ ル ボ ス コ ピ ー	21	15	16	19	15	14	16	13	19	18	7	18	191	15.9
子 宮 卵 管 造 影	0	2	2	1	1	3	2	0	1	4	4	2	22	1.8

■産婦人科分娩・手術・検査件数

●分娩件数

全765例

初産	367 件	男児	401 件	無痛分娩	354 件
経産	398 件	女児	358 件	吸引分娩	83 件
生産	759 件			鉗子分娩	79 件
死産	6 件			臍帯血献血数	393 件
				臍帯血搬送数	151 件

●帝王切開術件数（分娩件数のうち）

全186例

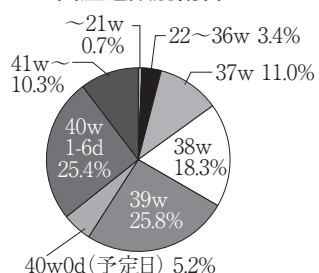
反復帝王切開	74 件	初回帝王切開	112 件
緊急帝王切開	75 件	選択帝王切開	111 件

●紹介分娩患者内訳

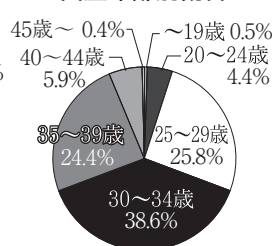
全391例

里帰り	131 件	引越し	13 件
紹介元分娩扱いなし	192 件	初期紹介	18 件
自主的	34 件	その他	3 件

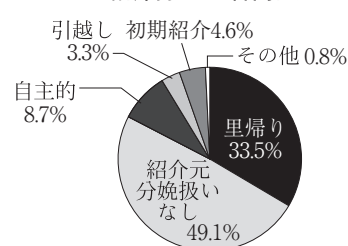
出産週数別割合



出産年齢別割合



紹介分娩患者内訳



●小手術

全82例

流産手術	60 件	頸管縫縮術	3 件
頸管縫縮解除術（チューブ抜去）	4 件	その他	15 件

●開腹手術

全5例

子宮全摘術	2 件	子宮付属器腫瘍摘出術	1 件
子宮筋腫核出術	2 件		

●腹腔鏡手術

全7例

腹腔鏡下子宮付属器腫瘍摘出術	7 件
----------------	-----

●子宮鏡手術 全32例

子宮鏡下子宮内膜ポリープ切除術	28 件	子宮鏡下有茎粘膜下筋腫切出術	3 件
子宮鏡下子宮筋腫核出術	1 件		

●子宮脱手術 全1例

膣閉鎖術（中央膣閉鎖術全子宮脱）	1 件
------------------	-----

●膣式手術 全21例

子宮内膜搔爬術	8 件	子宮内容除去術	2 件
胞状奇胎除去術	1 件	子宮頸管拡張術	1 件
子宮頸部ポリープ切除術	4 件	子宮内避妊具挿入・抜去	5 件

●外陰・その他 全8例

皮膚皮下腫瘍摘出術	3 件	尖圭コンジローム切除術	2 件
創傷処理	2 件	バルトリン線のう腫瘍摘出術	1 件

●検査件数 全213例

コルボスコピー	191 件	子宮卵管造影検査	22 件
---------	-------	----------	------

■内視鏡検査件数月別集計

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
上部消化管内視鏡検査	179	191	202	164	193	186	222	179	198	228	212	206	2,360
経口	80	84	78	81	79	65	92	74	81	88	97	93	992
経鼻	99	107	124	83	114	121	130	105	117	140	115	113	1,368
内科検査	29	23	27	37	32	15	30	17	25	24	34	27	320
健診科検査	150	168	175	127	161	171	192	162	173	204	178	179	2,040
下部消化管内視鏡検査	13	18	15	18	12	13	13	15	16	20	7	16	176

■内科手術件数月別集計

部位	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
大腸	3	5	7	11	4	7	2	6	6	4	2	6	63
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
計	4	5	7	11	4	7	2	6	6	5	2	6	65

■内科手術件数（手術室不使用の術式を含む）

●大腸手術	全63例		
大腸ポリープ切除術（2cm未満）	60 例	大腸ポリープ切除術（2cm以上）	2 例
内視鏡的大腸止血術	1 例		
●その他手術	全2例		
喉頭異物除去術（直達鏡によるもの）	1 例	皮膚切開術（10cm未満）	1 例

■健診科受診者件数

2024年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
明石市検診	胸部検診	0	0	0	0	15	44	33	45	53	37	43	270	22.5
	胃がんリスク検診	14	12	29	0	0	10	16	20	25	14	22	187	15.6
	大腸がん	48	38	84	0	0	17	44	44	53	74	51	501	41.8
	子宮がん（頸部）	35	34	64	0	0	13	29	39	39	54	59	399	33.3
	子宮がん（体部）	19	27	29	0	0	10	25	21	31	35	28	250	20.8
	乳がん	43	60	90	0	0	20	41	46	48	80	86	562	46.8
	肝炎	8	8	10	0	0	7	15	12	15	20	12	116	9.7
	検診合計	167	179	306	0	0	92	214	215	256	341	287	2,285	190.4

一般健診	19	20	30	56	20	18	17	16	24	23	28	30	301	25.1
生活習慣病予防健診	181	217	226	297	241	237	270	196	250	261	212	241	2,829	235.8
人間ドック	236	201	217	166	186	197	252	206	223	240	216	255	2,595	216.3
特定健診	78	73	116	5	9	39	70	60	73	118	79	86	806	67.2
特定健康指導	3	5	6	1	2	4	2	0	1	3	0	0	27	2.3

件数総合計	684	695	901	525	458	587	825	693	827	986	822	840	8,843	736.9
-------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------	-------

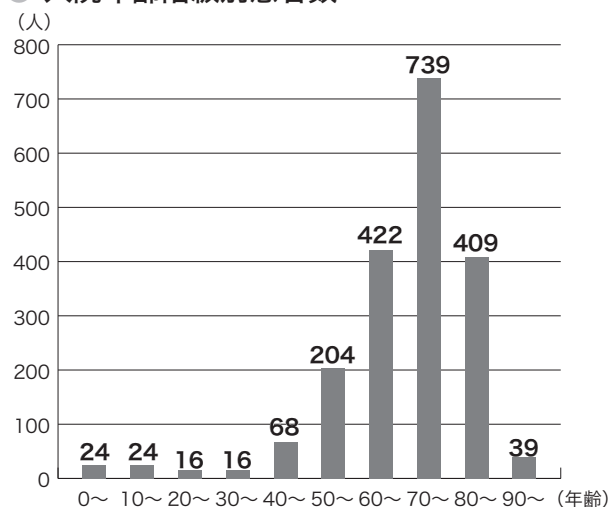
■眼科統計

※2024年1～12月に退院した患者で集計

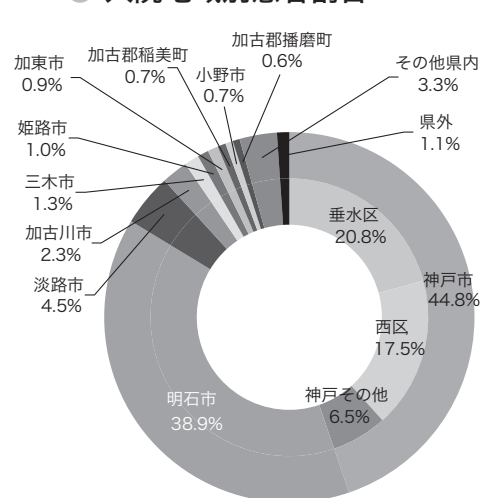
●入院患者における主病名上位順

上位順	病名	実患者数
1	白内障	1036
2	網膜剥離	124
3	緑内障	109
4	網膜前膜	83
5	眼瞼下垂	73
//	角膜ジストロフィー	73
7	斜視	66
8	眼球内異物残留	46
9	黄斑円孔	45
10	加齢黄斑変性	41

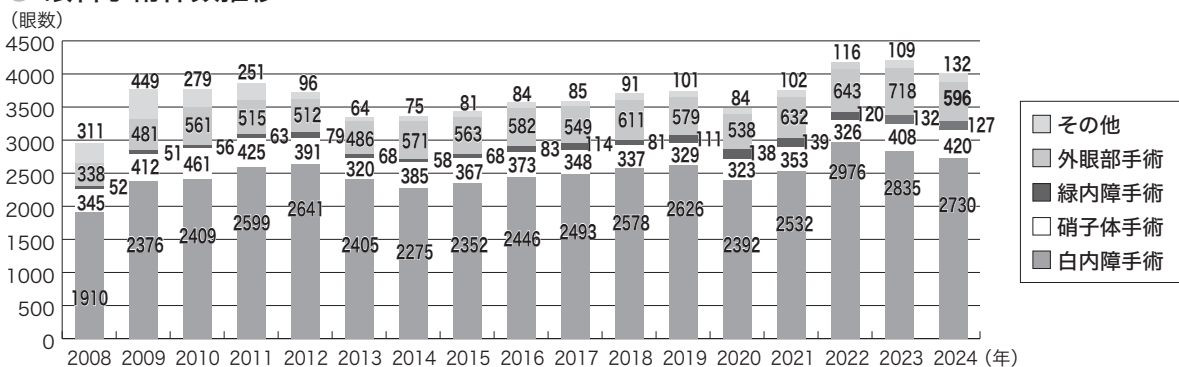
●入院年齢階級別患者数



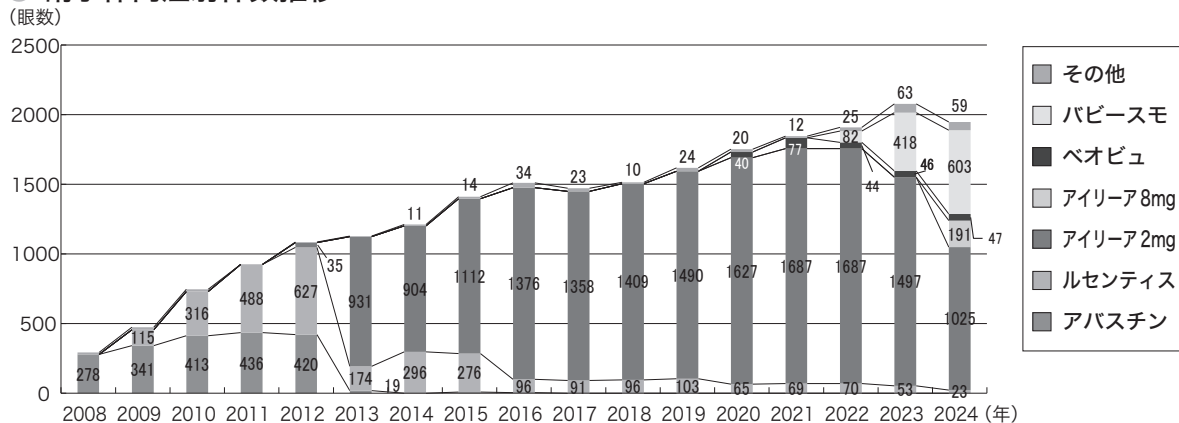
●入院地域別患者割合



●眼科手術件数推移



●硝子体内注射件数推移



■産婦人科統計

※2024年1～12月に退院した患者で集計

●入院患者における科別、主病名上位順

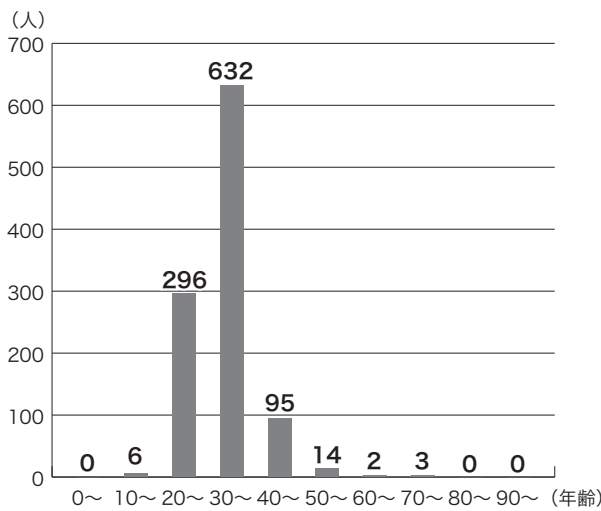
<産科>

上位順	病名	実患者数
1	自然分娩	332
2	軟産道強靱症	95
3	胎児機能不全	87
4	自然流産	62
5	授乳婦の産後ケア	51
6	児頭骨盤不均衡	38
7	妊娠高血圧症候群	36
8	妊娠悪阻	34
//	遷延分娩	34
10	妊娠糖尿病	30

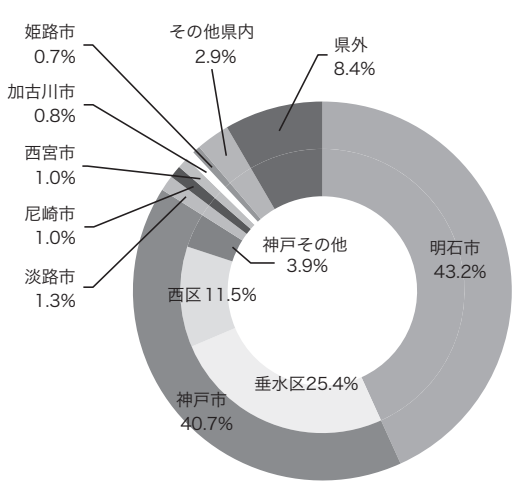
<婦人科>

上位順	病名	実患者数
1	子宮内膜ポリープ	28
2	子宮筋腫	7
//	子宮内膜増殖症	7
4	卵巣のう腫	6
5	子宮頸管ポリープ	3

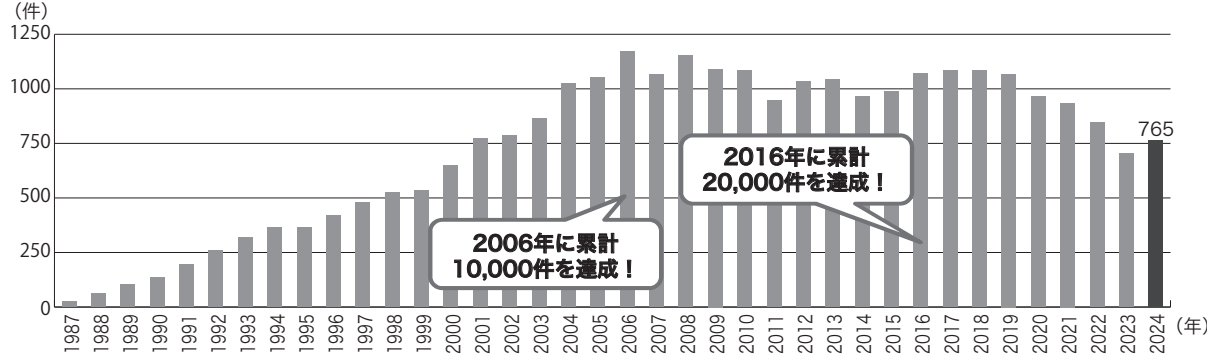
●入院年齢階級別患者数



●入院地域別患者割合



●年間分娩件数推移



●年間無痛分娩件数推移

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
無痛分娩	76	69	48	71	80	106	102	130	196	189	201	215	261	322	317	279	354
割合	6.6%	6.3%	4.4%	7.5%	7.7%	10.2%	10.6%	13.2%	18.3%	17.4%	18.6%	20.1%	27.1%	34.4%	37.3%	39.6%	46.3%

■内科統計

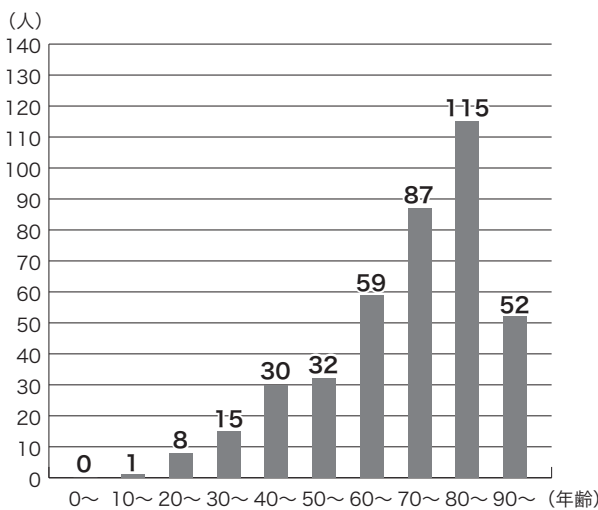
※2024年1～12月に退院した患者で集計

●入院患者における主病名上位順

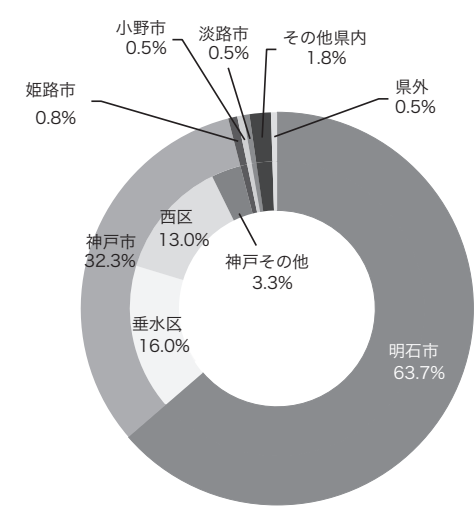
上位順	病名	実患者数
1	大腸ポリープ	72
2	2型糖尿病	37
3	感染性肺炎	26
4	COVID-19	19
5	感染性腸炎	13

上位順	病名	延べ患者数
1	2型糖尿病	682
2	関節リウマチ	612
3	感染性肺炎	385
4	誤嚥性肺炎	321
5	COVID-19	299

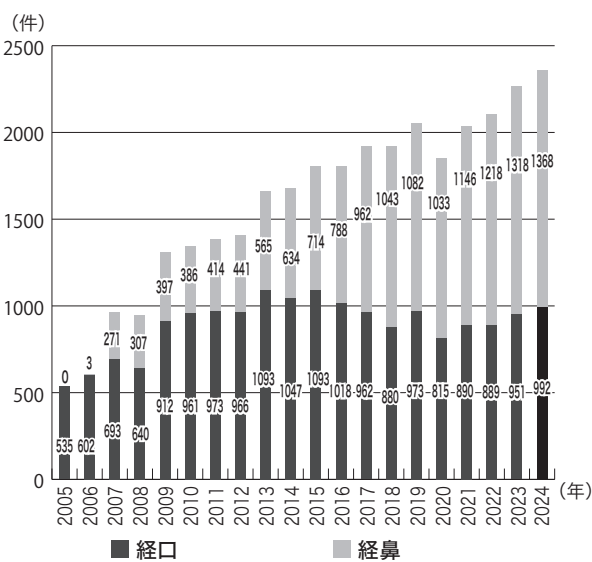
●入院年齢階級別患者数



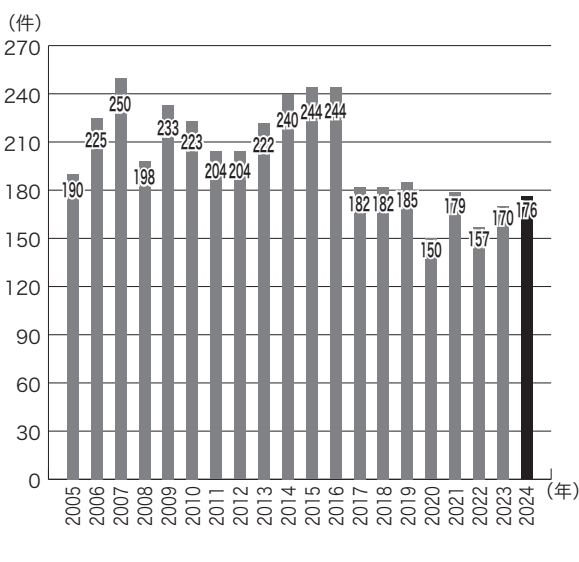
●入院地域別患者割合



●上部消化管内視鏡検査件数推移



●下部消化管内視鏡検査件数推移





診療部

眼 科

■スタッフ

眼科医師 常 勤 7 名
非常勤 9 名

理事長 明 石 梓
眼科部長 藤 原 りつ子
眼科部長 三 浦 真 二
眼科部長 窪 谷 日奈子
眼科部長 大 塚 斎 史
眼科医長 徳 永 敬 司
眼科医長 長谷川 実 茄

■部署紹介

眼科医師 7 名で運営されている。外来スタッフは看護師 3 名（非常勤 4 名）、視能訓練士 15 名（非常勤 3 名）、眼科コメディカル 4 名、医事セクレタリー 10 名（非常勤 1 名）で診療をおこなった。

令和 6 年総患者数は 51924 人（月平均 4237 人）、入院総患者数は 1960 人（月平均 163 人）であった。紹介患者数は 1927 人であった。手術件数は 4005 件であった。

■取り組み

1. 診療機器の新規導入
2. 外来待ち時間対策
3. 他施設の当院に対してのニーズの把握
4. 働き方改革の実行

■所感

令和 6 年 3 月に眼科用 P D T レーザー装置ビズラス PDT システム 690S（Carl Zeiss Meditec）の老朽化に伴い新たに Vitra689 レーザーシステム（LUMIBIRD MEDHICAL）を購入した。本装置は眼科領域においては脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症に対して光線力学的療法を行う装置であり古くから導入されてきた。近年様々な抗 VEGF 硝子体内注射の薬剤が開発されるなか依然として病態によっては積極的に選択される治療法となる。疾患ごとに適切に治療を組みあわせることで患者様にとってより良い結果をもたらす可能性がある。

また手術室に眼科用手術台メプロ 5（タカラベルモント）を導入した。これに伴い全身手術麻酔時においてもスムーズな移動、頭の角度の微調整などが行えるようになり円滑な手術、管理が可能となった。

外来の待ち時間に対する対策として、必要な検査や処置において状況によっては不要となるルーティン化しているものの是非を見直した。また病状が安定している患者の受診間隔の延長、および逆紹介を可能な限り行った。

患者獲得のため病診連携ニュースでアンケートを行い（夏～秋ごろ）、他施設の当院へのニーズの把握に努めた。専門性や医師への信頼が求められるものとして回答が多い結果となり、概ね当院に

対する評価は高評価であった。引き続きニーズにこたえられるよう個々の医師、スタッフの精進を続ける必要がある。

働き手の確保に向けて休みが取れる職場であることも大事なことであるため、働き方改革（休み方の改革）として医師も年間5日間の有給の確保も実行した。

令和6年度は「選ばれる病院になる」というスローガンのもとで診療に邁進してきたが、本年度も患者様はもちろんのこと、病院スタッフにも当院で働きたいと選ばれる環境づくりを整えていきたい。



産婦人科

■スタッフ

産婦人科医師 常 勤 8名

副院長 田 中 あゆみ

産婦人科診療部長 池 野 慎 治

産婦人科部長 藤 原 卓 夫

産婦人科部長 野 原 当 (兼 健診科)

産婦人科部長 三 村 治

産婦人科医長 河 崎 あさひ

産婦人科医長 清 水 奈都子

産婦人科医長 原 友 美

■部署紹介

当院のスローガンである「人にやさしい医療を目指して」を信条に周産期医療を中心とした診療を行っている。出産育児経験のある4名の女性医師も診療しており、妊婦さんやお母さん方に寄り添った医療提供を行っている。最新の医療情報も更新しており、兵庫県内ではまだ数えるほどの施設でしか行われていない新生児尿サイトメガロスクリーニング検査を開始しており、令和7年度からは全例に検査を実施する。また、新生児・乳幼児の肺炎の主な原因であるRSV感染対策である母体へのRSVワクチン接種も開始している。最近では、無痛分娩の希望者が増加している。国内では日中の麻酔対応を原則としている施設がほとんどであるが、当科では陣痛開始後の麻酔導入に力をいれており、夜間対応が増加するが自然でより安全性の高い無痛分娩を提供している。

■取り組み

1. 自然で安全な無痛分娩の提供
2. 新生児へのサイトメガロウイルス感染対策
3. RSVワクチン母体接種の情報提供

■所感

1987（昭和62）年あさぎり病院に産婦人科部門を開設して、2016（平成28）年累計2万人を超える新生児が出生した。近年の国内全体で出生数の減少に伴い、当院の年間分娩件数も減少している。昨年は765件の出産があった。コロナ前よりは少ないが増加傾向である。

無痛分娩希望者の増加がみられ、月によっては半数以上の出産が無痛分娩だったこともあった。一般社団法人日本無痛分娩研究機構より施設認定も受け、安全に無痛分娩を受けられる施設として活動している。

300人に1人は母児感染するといわれるサイトメガロウイルス（CMV）の新生児尿スクリーニング検査をいち早く開始している。新生児聴覚スクリーニング検査を異常なしと判断された新生児にCMV感染が確認された事例もあった。このような児はこれまでなら気づかないまま無治療で成長するしかなかったが、今後は早期の治療により難聴や発達障害の予防が期待できる。

内科

■スタッフ

内科医師	常 勤	4 名
	非常勤	6 名

院長	明 石 健 吾
内科部長	来 田 和 久
内科部長	弓 岡 稔 貴
内科医長	川 原 康 祐

■部署紹介

当院内科では、糖尿病内科、消化器内科、膠原病リウマチ内科の常勤医に加え、循環器内科の非常勤医が連携し、専門的かつ包括的な診療を行っている。各診療科はいずれも専門性を生かした医療を提供すると同時に、総合内科的視点を持って日々の診療にあたっている。

外来診療においては、専門疾患の管理に加え、健診後の二次精査や生活習慣病の長期管理、さらには発熱や感冒などの一般内科疾患にも広く対応している。入院診療では、糖尿病教育入院や大腸ポリープの内視鏡的切除、膠原病の精査・初期治療といった専門的処置に加え、肺炎、尿路感染症、憩室炎などの急性疾患にも柔軟に対応している。地域の医療機関や介護施設との連携も密に行い、地域に根ざした医療の提供を心がけている。

■取り組み

1. 専門性を有する糖尿病内科、消化器内科、膠原病リウマチ内科の診療の継続
2. 需要が高まる带状疱疹ワクチン接種の実施体制の強化

■所感

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が一時期よりは落ち着いたとはいえ、依然として多数のCOVID-19症例に加え、インフルエンザ、マイコプラズマ感染症など多彩な感染症症例がみられた年であった。コロナ禍で得られた診療経験や院内動線管理の知見を活かし、柔軟かつ確実な対応を継続できたことは大きな成果である。

糖尿病内科では、適切な診断と生活指導に加え、GLP-1作動薬やインスリン治療、持続血糖測定器（CGM）を活用した治療を積極的に展開した。妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠の血糖管理や、糖尿病性網膜症早期発見・治療など、他科との連携も行っている。令和5年度に再開した糖尿病教室は、令和6年には計4回開催され、毎回多数の参加者を得た。

消化器内科では、健診受診者の増加に伴い、令和6年は2360件の上部消化管内視鏡検査を実施した。下部消化管内視鏡検査は、主に便潜血陽性者に対する二次精査として、年間176件施行し、適宜ポリープ切除を行った。検査精度と安全性を重視した体制構築に努めている。

膠原病リウマチ内科において、関節リウマチが最も多い疾患であるが、令和6年には207例に対して治療を行った。従来型合成抗リウマチ薬での治療は勿論の事、97例に対して生物学的抗リウマチ薬・分子標的型抗リウマチ薬を用いて管理した。乾癬性関節炎を始めたとした脊椎関節炎や、全身性エリテマトーデスでも、生物学的製剤を含めた最新の治療選択肢を取り入れ、Shared Decision Makingの理念に基づき、患者個々の病態に応じた最適な治療を提供している。

令和6年度には、带状疱疹ワクチン接種に対する自治体の費用助成制度が開始されたことを受け、当院でも接種希望者が顕著に増加した。令和3年から令和5年にかけては生ワクチン6例、不活化ワクチン64例（計128回）の接種にとどまっていたが、令和6年には生ワクチン8例、不活化ワクチン54例（計107回）と、前年までの実績と並ぶ接種件数を記録した。

今後も、専門医療と総合診療の両立を図りつつ、地域に根差した信頼される内科診療を継続していく所存である。

健 診 科

■スタッフ

医師 常 勤	5 名
事務職	4 名

健診センター長 野 原 当

■部署紹介

健診科では近隣住民や事業者、当院職員の疾病の予防早期発見を目的に人間ドック、政府管掌健診、明石市民健診、淡路市民健診、職員健診等を行っている。検査項目は血液検査、尿検査、心電図、レントゲン検査、上部内視鏡検査、腹部エコー、CT、MRI、マンモグラフィと多岐に渡る。DWI（MRIを利用した全身検査）、脳ドック、CTを利用した肥満チェックなども実施している。眼科検診、婦人科検診も行うことができる等、受診者の方の利便性にお応えしている。

■取り組み

1. 内科との連携を密にして受診希望者増加に対応
2. 女性の健診充実（マンモグラフィ、乳房エコーは原則女性技師担当）
3. 職員健診の充実（個々の職員の希望聞き取り実施）

■所感

感染症流行があったが継続的に感染対策に努め院内感染の発生は認めていない。COVID-19流行時の令和2年に大幅な健診受診者数減少があったが、翌年からは回復し、令和6年まで受診者数が年々増加している。

増加する健診希望の方々の要望に応えるため、令和5年から例年受診者数が少ない4月に受診をお勧めしている。また随時内科から内視鏡検査枠融通の協力を得るなど院内連携を密にして対応している。以前より実施している職員健診を見直し、令和5年から協会健保健診利用希望者に対応するなど、より充実した職員健診を行うようにした。

当院は産婦人科や眼科の健診受診も可能である。また子宮がん検診乳がん検診も実施していることから女性の健診受診者の割合が高く、令和6年は男性27%、女性73%であった。

今後もより充実し利便性の高い健診を実施できるよう努力している所存である。

表1：各件数（1～12月）

	胃カメラ	マンモグラフィ	乳房エコー	脳ドック(MRI)	DWI
2024年	2044	1264	358	278	5
2023年	1896	1176	351	213	3
2022年	1740	1127	346	196	
2021年	1698	1076	377	161	
2020年	1510	973	353	154	

表2：特定健診・がん検診（明石市）

	特定健診(明石市)	がん検診(明石)	特定健診(企業)
2024年	423	2285	388
2023年	393	1893	394
2022年	352	1747	371
2021年	311	1532	344
2020年	306	1426	332

放射線室

■スタッフ

診療放射線技師 4名

主任 野 垣 幸 男

■部署紹介

各領域で改訂されるガイドラインや診断基準に耐えうる画像を、臨床現場に提供することが放射線室の役割である。放射線室は男性2名・女性2名の計4名で、X線撮影、マンモグラフィー、CT検査、MRI検査、骨密度検査を担当している。各スタッフは自己の専門性を高めるため、各種認定資格を取得している。日頃から、各認定機関が開催する研修会や勉強会で得た知識を、実臨床に反映するため日々研鑽している。

■取り組み

1. MRI装置の更新に伴う撮像プロトコルやシーケンスの見直し
2. 個人のスキルアップ
3. 検査待ち時間の短縮と検査負担の軽減

■所感

この1年、「選ばれる病院になる」のスローガンのもと、診断価値・付加価値のある画像提供と共に、検査時間の短縮による患者負担の軽減を目指した。

その中で一番大きな出来事としてMRI装置の更新があった。前回の更新時には最新であった技術も年月の経過と共に陳腐化する。MRI装置の更新を機に依頼件数の多い検査について撮像プロトコルを全面的に見直した。より薄いスライスで高精細の画像を、従来よりも短時間で提供できるようスタッフと協議を重ねた。この新しいプロトコルは、知的好奇心の満足・スキルアップのためのセミナーや、勉強会で得た知識を持ち寄ったものが集合知となって実現したものである。

これと並行して取り組んだ内容として、検査の負担軽減について知恵を出し合った。無機質になりがちな検査室の壁紙を、女性スタッフが主体となって検討を重ねた。斬新だが主張しすぎないやさしいものに変更したことで検査時の不安や緊張を和らげる効果を期待したものである。

来年も臨床のニーズに適応しつつ、検査待ち時間の短縮など、患者負担の軽減につなげられるよう努力していきたい。

臨床検査室

■スタッフ

臨床検査技師 5名

副主任 千 田 佑貴子

■部署紹介

臨床検査室では現在5名の臨床検査技師が在籍し、医師の指示のもと各科から依頼される様々な検査に対応している。検査内容は主に2つに分けられ、患者様より採取された血液や尿などの成分を分析する「検体検査」と、患者様に直接触れ、生体機能や形態異常などを調べる「生理機能検査」がある。迅速かつ正確に検査を行なうことで、病気の早期発見や診断、治療効果、経過観察に役立つ情報を提供できるよう日々努めている。

■取り組み

1. 超音波検査の担当増員（待ち時間対策・勤務環境の改善）
2. AM外来枠+1（待ち時間対策）
3. 担当業務のローテーション（業務の属人化をなくす）

■所感

令和6年は「選ばれる病院になる」のスローガンのもと、主に属人化をなくすことを目指し大きく2つの目標に取り組んだ。

1つ目の目標は、「超音波検査担当の増員」である。検査部位によっては限られたスタッフしか対応できず、急な休みの対応や、担当者の負担が大きいことが問題となっていた。これらを軽減するために、「各部位最低2名、できれば3名の担当確保」を目標に、まずは検査数の多い腹部・乳腺からそれぞれ1名ずつの研修を始めた。慣れないプローブの手技に苦戦しながらも2名とも努力を欠かさず、9月・12月にそれぞれひとり立ちをすることができた。しかしながら10月にスタッフの退職があり、超音波担当が減員した。これによりどちらの部位も担当人数は±0名という最終結果となり、目標には及ばず捗々しくない結果となった。今後も最重要課題として取り組みを続ける方針である。

2つ目の目標は、「担当業務のローテーション」である。互いに業務の詳細までは知らないことが多く、内容を把握しているスタッフが2名以上いることで有事の際でも助け合えるような仕組みを作りたいと考えた。2か月間の移行期間を設け、その間に各々の担当業務をすべて別スタッフにシフトできるよう全員で働きかけた。その上で「担当業務表」を掲示し、誰がどの業務を以前担当していたか、また現在担当しているかを把握できるようにした。これにより部署全体がどのように運営されているか把握ができ、一人一人が「検査室を運営するチームの一員である」ということを認識できるようになったと感じた。

来年度は育児休暇により、スタッフが1名少ない状態での運営となる。本年度で培ったチーム力を強みに、患者様にもスタッフにも寄り添った運営が継続していけるよう取り組んでいきたい。

眼科検査室

■スタッフ

視能訓練士 15名（内非常勤 3名）
眼科コメディカル 4名

主任 藤 本 愛 子

■部署紹介

眼科検査室では、眼科医の指示のもと視力・眼圧・眼位・視野などの一般検査や眼鏡・コンタクトレンズの処方検査、斜視や弱視の検査・訓練、ロービジョンケアなどを行っている。また白内障手術、屈折矯正手術（有水晶体眼内レンズ）、斜視手術などに必要な、より専門性の高い術前検査も行っている。

より高度な眼科医療を患者様に提供できるよう「症例にあわせ正確かつ迅速に」を念頭に置き、日々検査に努めている。

■取り組み

1. 眼科の待ち時間短縮
2. 業務の属人化をなくし、均等に休みを取りやすい環境を作る

■所感

令和6年は「選ばれる病院になる」のスローガンに基づき、患者様にも働くスタッフにも選ばれるための取り組みを行った。

眼科来院患者様の待ち時間を調査し、どの時間帯にどこで待ち時間が多く発生しているのかを細かく調べ、分析を行った。検査はどの時間帯もほぼ予約時間通りに行えていたため、人員が手薄になる昼前後の受付予約業務を検査員が手伝うことで、患者様の滞在時間を少しでも短くできるように努め、部署を超えてカバーできる体制を整えた。

また、業務の属人化をなくし、均等に休みを取りやすい環境を作るため、個人にしかできない仕事をなくすよう努めた。完全に属人化業務をなくすことはできなかったが、カバーしあえるところは今後も続けていきたい。今後もよりよい眼科医療を患者様に提供できるようスタッフの資質向上を図り、部署を超えて、良い病院にできるよう、各スタッフと共に邁進していきたい。

薬務室

■スタッフ

薬剤師 5名（常勤2名・非常勤3名）

副主任 片山 瑞 補

■部署紹介

薬務室は医薬品の在庫管理、処方調剤・監査、服薬指導、院内製剤の調製等、医薬品に関連した多岐にわたる業務を担う部署である。また、患者様へ安全な医療を提供できるよう、定期的にDIニュースなどを発行し、スタッフの医薬品に関する知識向上を図っている。日々の業務において各部署スタッフや近隣調剤薬局と相互に連携を図り、より良い医療提供に取り組んでいる。

■取り組み

1. 業務の効率化・簡略化
2. 服薬指導の徹底
3. DIニュースの発行
4. 心理的安全性の高い組織づくり

■所感

残業時間が多く、業務の効率化、簡略化が図れる部分があるのではないかと考え、業務の見直しを行った。具体的には医薬品の在庫数を定数化し、発注業務の簡略化、薬品請求に締め切り時間を設け、前日に医薬品払い出しの準備が出来るようにした。また、業務頻度毎に一覧化し、業務を共有化したことで、部署内全員で期日までに取り組むべきタスクとして認識することができた。

人員不足などの影響で、服薬指導に行けていなかった時期もあったが、今年度は可能な限り服薬指導を実施するよう心掛けた。部署内全体で取り組んだ結果、今年度は325点2455件（昨年度：1839件）、380点 1312件（昨年度：951件）、90点2725件（昨年度：1985件）と昨年度を大きく上回る指導件数となった。

DIニュース発行も月に1つ程度は発行できた。来年度はさらに質の高いDIニュース発行に取り組んでいきたいと考える。

薬務室の雰囲気は良く、常に話し合い、意見を出し合い、知識を補い合いながら業務に取り組むことができています。今後も心理的安全性の高い組織づくりを意識し、業務に取り組んでいきたいと考える。

栄養管理室

■スタッフ

管理栄養士 2名

副主任 近藤 恭弘

■部署紹介

当管理室の業務は栄養管理と給食管理に分けられる。栄養管理では入院外来問わず医師が必要と判断した場合の栄養食事指導を対象者個々人に合わせた形式で実施する。給食管理では入院患者への献立作成、食物アレルギーの対応、内科合同カンファレンスにて関係スタッフと食形態などを協議しながらの安全安心な食事提供を心掛けている。その他では災害発生時の給食体制整備や院内イベントでは糖尿病教室の運営にも携わっている。

■取り組み

1. 栄養管理体制の再構築
2. 広報活動への取り組み
3. イベント活動の実際

■所感

「選ばれる病院になる」という今年のスローガンを念頭において業務に臨んだ。

今年の診療報酬改定により栄養管理体制については基準の明確化が謳われた。入院患者様が退院されるまで、推奨の栄養スクリーニングツールの利用、それに加え定期的な評価の記録が必要となった為、医師や看護師の協力のもと運用を一部改めた。

昨年は病診連携ニュースに健診科受診者の検査データと食生活の関連について検証結果を紹介した。今年については現時点では完成を見ないが、データ分析を残すのみとなっている為、次年度では院内研究発表を視野に入れて取り組む所存である。

院内でのイベントのひとつに糖尿病教室がある。年に4回開催し糖尿病専門医師とそれ以外の専門職スタッフが講義する形式となっており、当管理室が担当した10月で11回目の開催となった。食事についての講義をしたが、参加者の日頃の食に対する関心の高さからか多くの質問があった。今後も魅力ある教室づくりに尽力したい。

医療機器管理室

■スタッフ

臨床工学技士 1名

副主任 小 橋 祐 介

■部署紹介

近年、医療の進歩とともに医療現場では高度化した医療機器がたくさん使用されている。その中で当院の医療機器管理室は主に医療機器管理業務・手術室業務を行い、その他に医療機器に関する情報収集・医療ガス管理などを行っている。

臨床工学技士は法律で“医師の指示の下に生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業とする者”とされる専門医療職種である。常に他部門と協同し医療機器を用いたチーム医療の一員として安全・安心な医療提供に努めている。

■取り組み

1. 老朽化医療機器への対応
2. マニュアルの見直し
3. 自己肯定感を高め仕事の活性化につなげる

■所感

当院スローガンである「選ばれる病院になる」のもと老朽化医療機器への対応や自己肯定感を高めることで職場の雰囲気が以前より良くなり活力ある職場になれるよう取り組んだ。

令和6年度の点検実施件数1026件、修理や不具合対応は189件であった。点検件数は昨年度とほぼ同数で修理や不具合対応は増加していた。同時に医療機器管理の質向上のため定期点検などのマニュアル内容の見直しを行ったが完成できなかったため次年度も引き続き実施したい。

また今年度は意識を高めるため日々の業務の中で出来た事や気づいた事などを自身で振り返ることで自己肯定感を高める事に努めた。個々が前向きな気持ちで仕事に取り組む事で職場内で良い変化をもたらしていきたい。

最後に病院内の医療機器の安全管理は患者の安全を確保する上で大変重要である。適切な管理が行われないと、機器の故障や誤使用による医療事故が発生する可能性が増える。まれに発生する故障に備え今後も安全な医療サービスを提供できるよう整えチーム医療に貢献していきたい。

医療相談/地域医療連携室

■スタッフ

医療ソーシャルワーカー（MSW）	1名
事務職	1名

石 村 紗弥香

■部署紹介

当院の医療相談／地域医療連携室は、相談業務と地域連携業務を行う。相談業務は、医療ソーシャルワーカーが患者様・家族様から相談を受け、利用できる制度の案内、転院・入所相談等の退院支援、関係機関との連絡調整、入院前相談等を行う。地域連携業務は、他医療機関からの患者様の受診・検査予約取得、他医療機関への紹介、問い合わせ対応、紹介元へ受診報告等を行う。

■取り組み

【相談業務】

1. 受診相談
2. 入院相談
3. 関係機関への連絡調整

【地域連携業務】

1. 他医療機関からの予約受入・当院より予約依頼
2. 報告書等処理管理
3. 他医療機関からの問い合わせ対応

■所感

医療相談/地域医療連携室では、2名体制で相談業務と地域連携業務に取り組んだ。

加速する高齢化や疾患構造の変化により患者様・家族様はさまざまな問題や不安を抱いている。また、患者様を取り巻く環境は核家族化の影響を受け、家族・地域で支え合い助け合う力が低下している。医療ソーシャルワーカーは、患者様・家族様・関係機関から相談を受け、安定した生活を送れるよう受診相談や転院・入所相談、介護保険関連の相談業務を主に行った。外来では身体状況や環境の変化により継続的に通院できないケースがみられ訪問診療への移行や介護保険申請の支援を行った。入院では身体状況の変化に伴い家族や住環境等の問題により元の生活に戻れないケースが多く施設入所・転院の調整を行った。

地域連携業務は、医療機関からの依頼・問い合わせ業務を主とし取り組んだ。診療情報提供書や返書の管理等も行った。緊急を要する依頼・問い合わせも多く、他部署と連携しながら早急な対応に努めた。

医療機関からの病状照会に対しては最短・最良の返答が行えるよう臨機応変に対応し、病診連携の一端を担った。

看護部

看護部

看護体制 10：1

勤務体制 2交代

看護方式 チームナーシング

看護部長 佐々木 愛

■取り組み

1. エンゲージメントの向上
2. 仕事への誇りとやりがい
3. コミュニケーションの活性化

■所感

令和6年は診療報酬のトリプル改定が行われ、医療DXの推進や働き方改革を通じて、看護師の負担軽減や業務効率化が進められた。一方、医療人材の確保は依然として課題であり、当院でも看護師や看護補助者の人材確保に苦心した一年だった。

あさぎり病院では、「選ばれる病院になる」という方針のもと、看護部は3つの目標を掲げた。患者様に選ばれるためには看護の質向上が不可欠であり、職員に選ばれるためには、働き続けられる環境づくりが重要である。看護部全体で一丸となり、目標達成に向けて取り組んできた。

看護部の組織では、産育休者が8名おり、一時的に人員が不足する時期もあったが、11名の仲間を迎え、チームを強化できた。産育休者の復帰率は100%を維持し、育児と仕事の両立を支援するため、協力体制を強化した。また、有給取得率の向上にも努め、約8割の職員が目標を達成した。女性の多い職場において、ワークライフバランスの充実は極めて重要であり、今後も働きやすい環境づくりを推進していきたい。

職員同士の交流や情報交換の場を設けることで、他部署の業務を理解し、お互いに協力し合える関係性を築くことができた。さらに、業務上の課題や悩みについて意見交換を行い、組織としての協力体制をより強固なものとした。

看護研究では、「産後の神経因性膀胱発症のリスク因子と携帯エコーを用いた残尿測定の有用性について」を日本産科麻酔科学会でポスター発表を行った。また、神戸中材業務研究会では、「オートクレープ、ガス式ボイラーと電気式ボイラーを比較して」について病院紹介を行った。今年も各部署が院内研究に積極的に取り組み、知識と技術の向上を図ることで、看護の質のさらなる向上に努めた。

今後も専門性の高い看護の提供を追求し、看護師が心身ともに健康を維持しながら、患者様に寄り添う医療従事者として責務を果たし、より質の高い看護を提供できるよう努めていきたい。

外来管理

■スタッフ

看護師	18名
助産師	2名

師長 原 田 奈津江

■部署紹介

当院の外来は、内科、眼科、産婦人科の看護体制をチームナーシング制で行い、看護の提供に努めている。内科では膠原病、消化器、糖尿病、循環器等疾患で来院される方が多く、安心して治療を受ける事が出来るよう患者様の視点に立って支援を行っている。眼科では白内障や硝子体疾患等を手掛けており乳幼児～老年期の多岐に渡る疾患の患者様が、安全に治療ができる看護の提供を行い、手術申込、日帰り手術の看護等行っている。産婦人科は妊婦健診の介助、保健相談、婦人科診療の検査や介助など細やかな心配りのできる看護に努めている。また各科の診療がスムーズに行えるよう、中央処置室を設けて各科の採血や点滴などの処置を行っている。

■取り組み

1. 待ち時間対策
2. 働く環境を整える

■所感

令和6年の外来は、「選ばれる病院になる」をスローガンに外来運営に取り組んできた。

以前より眼科外来のみで導入していた呼び出しシステムを6月より全科導入し個人情報の保護に努めるのみでなく待ち時間を有効活用してもらうなど待ち時間対策の一環を担うことが出来るようになった。眼科では手術件数の多い白内障の説明パンフレットを作成、待ち時間での活用を行った。産婦人科では問診表の見直しを行い、聞き取りやカルテ作成にかかる時間の短縮を行い待ち時間対策に取り組むことが出来た。内科では待ち時間を利用し看護ニーズのある患者様をピックアップし指導を行うなど看護の提供に努めることが出来た。

内科外来の就業時間が遅くなることが多く、子育て中の看護師も多いことから、午後の予約診療時間の変更を前倒しにする工夫を行うことで残業時間の減少に努めることが出来、労働環境の整備に努めた。有給取得率はややばらつきもみられたが、昨年より消化率のアップも見られ、休暇が取りやすくなるよう配慮を行った。

「人にやさしい医療を目指して」のスローガンは患者様へのスローガンであると共に、働く看護師にも繋がる言葉になるよう今後も務めていきたい。

眼科外来

■スタッフ

看護師 7名

副主任 竹下 奈々

■部署紹介

眼科外来では年間50000人以上の来院患者に対し、4000件以上の手術申込や1900件以上の硝子体注射などの予約・診療、処置介助、日帰り手術看護を主に行っている。

医師・検査・医事との連携項目も多く、患者様がより安全によりスムーズに診療・検査・手術を受けられるよう連絡を密に行っている。また乳幼児期から老年期まで患者も多岐にわたるため、検査・処置に介助が必要なことも多く、スタッフ間で情報を共有し安全に留意しながら快適な医療を受けることができるよう日々業務に取り組んでいる。

■取り組み

1. 待ち時間対策
2. 働く環境を整える

■所感

令和6年は「選ばれる病院になる」をスローガンにかかげ、部署間の連携・待ち時間対策への取り組みと、質の高い医療の提供に努めた。

眼科外来で取り組んだ看護研究は、待ち時間対策に着目し、「散瞳時間の短縮による効果」について、看護研究を行った。時間を要する眼科検査に対し、散瞳回数・間隔を変更することで患者様の病院での滞在時間の軽減につなげる事ができた。

さらに白内障手術のパンフレットを作成し、待ち時間の間でも手術に関する情報提供を行うツールを準備し、その結果スムーズに手術日程や検査日程を決めることができるようになった。

新しい眼科医による術式の導入対応や、眼科全体での急変時のシミュレーション実施・勉強会開催のために、看護師・検査・医事科共に定期的なミーティングを開催することで、大きなトラブルなく外来業務を遂行することが出来ている。

さらに患者様からの問合せや質問に関しても迅速に対応し、手術や検査前の患者様の不安の軽減につとめることが出来た。

今後も部署間・他部署と連携し、選ばれる病院として日々業務に取り組んで行きたい。

産婦人科外来

■スタッフ

助産師	3名
看護師	4名

主任 川崎 洋子

■部署紹介

当院の産婦人科外来では、年間約700件の出産を取り扱う妊婦健診の介助、保健相談を行い、必要時は市の保健師と連携して、妊娠期から産後まで切れ目のない妊産婦の支援に努めている。里帰り分娩にも対応しており、遠方にお住いの妊婦も実家の近い当院での出産をすることが可能である。婦人科診療では、子宮筋腫や卵巣嚢腫など、婦人科系疾患の診断、治療にも幅広く対応している。また子宮頸がん予防接種（HPVワクチン）の普及にも努めている。

すべての女性の豊かなライフスタイルを応援し、優しさ信頼のある看護の提供ができるよう産婦人科外来スタッフ一丸となって、日々業務に取り組んでいる。

■取り組み

1. 妊産婦のメンタルヘルスケアの充実と連携
2. あさぎり病院産婦人科の活性化への取り組み

■所感

令和6年の産婦人科外来は「選ばれる病院になる」をスローガンに外来運営に取り組んだ。

妊産婦のメンタルヘルスケアを重視し、妊娠期から活用しているシートでの情報収集を実施した。そこで気になる妊婦に関して産婦人科医師と情報共有し、適切な時期に心療内科と連携を行うことで、周産期をより安全に経過することを重視した。

また病棟助産師や地域の保健師と情報共有し連携強化を行った。その結果、妊娠期より気になる妊婦として病棟へ情報提供したケースは88件、そのうち地域の保健師へ連携したケースは22件であった。1か月健診時に産後うつ予備軍として地域の保健師へ連携したケースは91件、産後うつ予備軍の中で自殺念慮のある褥婦は44%含まれていることが分かり、妊娠期～産後まで切れ目のない支援がより必要であることを再認識した。

また呼び出しシステム導入や、里帰り分娩、婦人科初診等の方の待ち時間対策に取り組んだ。問診票や待合環境の見直し等を実施し待ち時間の短縮に繋がった。

今後も当院を選んでくださった方々に喜ばれるよう、質の高いケア、細やかな配慮や寄り添いのある看護を心がけ、あらゆる女性が安心して受診できるよう努めていきたい。

内科外来

■スタッフ

看護師 6名

副主任 上 浦 陽 子

■部署紹介

当科は膠原病リウマチ内科、糖尿病科、消化器内科の常勤医、循環器内科、糖尿病科の非常勤医による外来診察を行っており、一般内科から各専門科の診断、治療まで幅広い疾患をカバーし地域のみなさまの健康を支えるべく診療を行っている。

また、消化器内科医による上部・下部内視鏡検査、内視鏡治療も実施しており、健診受診者の増加に伴い内視鏡検査数も増枠して検査を実施している。

看護師は内視鏡検査・治療の介助をはじめ、外来受診者の診療の補助、膠原病や糖尿病患者への在宅療養指導を行っている。

■取り組み

1. 発熱外来を含む院内感染対策
2. 待ち時間対策
3. 在宅療養指導の拡充
4. 安全でスムーズな内視鏡室運営

■所感

令和6年度はコロナウイルスの爆発的な流行が落ち着き、ウィズコロナとして日常診療を行うこととなった。発熱外来は日常診療の一部として組み込まれ、より一層の院内感染対策が必要となった。門前薬局との連携、協力で発熱外来の患者様の動きがスムーズになり、隔離室の運用もしやすくなったためより多くの患者様を受け入れることができるようになった。

待ち時間対策の一環として外来診察枠の見直し、午後の受付時間の前倒しを行った。また、診察の待ち時間に看護師による患者様への療養指導や、症状の変化などの聞き取りを行うなど時間の有効活用となるよう努めた。看護師の指導内容の均一化や質の向上のため院外の研修会への出席や部署内での勉強会を実施した。最新の知見を取り入れた内容での指導ができるようスタッフ一同今後とも研鑽を続ける。

内視鏡検査は年々需要が増大し、検査の件数も増えている。効率よく検査を受けて頂けるよう、内視鏡室にケアワーカーを配置した。看護師との共働でより安全に、よりスムーズに検査を受けて頂けるようになった。次年度も受診者のニーズに合わせた柔軟で安全、安心な内視鏡検査を目指していきたい。

2階病棟

■スタッフ

助産師 26名

看護師 5名

ドクターズクラーク 2名

師長 西 尾 奈津子

■部署紹介

2階病棟は産婦人科・眼科の混合病棟である。令和6年は765件の分娩があり、特に無痛分娩に対するニーズが高まってきている。昨年は全分娩の約45%が無痛分娩であった。一人一人の産婦にとって満足できるお産となるよう寄り添いながらも母児の安全を最優先としてケアを提供している。地域の産婦の産後ケア入院の受け入れもしており、産後の母児のケアにも力を注いでいる。

眼科患者の受け入れも増加してきており、安全で質の高い看護を提供できるようチーム一丸となって、日々業務に取り組んでいる病棟である。

■取り組み

1. 産婦人科ホームページの新設
2. 看護研究：経膈分娩後早期入浴の有益性に関する検討（産後早期からの入浴は感染を起こさないのか、また産後うつ病の予防に効果があるのかー入浴群とシャワー浴群の比較検討よりー）
3. チーム医療の推進

■所感

令和6年は「選ばれる病院になる」のスローガンのもと、スタッフ一人一人が選ばれる病院となるためにできることを考え行動した。5月にはあさぎり病院のホームページを一新し、産婦人科は見やすく優しい雰囲気のあるホームページとして特別ページを設けた。合わせてInstagramの細かな更新や病院紹介ツアーを行い、全国的に出産数が減少しているなか、当院産婦人科では分娩件数を維持できている。

しかしながら社会的・精神的ハイリスク妊産婦が増えてきており、また産後うつや育児不安への問題に直面している産婦も多く、一人一人の産婦への細やかな対応に努めた。

看護研究としては産後の早期入浴がもたらす産婦の心身に与える影響について検討し、産後早期の入浴を可能とした。

母児の安全を担う病棟として医療の質向上のために全スタッフがNCPRを取得しており、母体救命の緊急時シミュレーションも定期的に行った。眼科患者様や高齢の患者様も増えてきており、認知症に関する勉強会の実施や他科の看護を深める研修を年間計画のもと開催した。

令和7年度のスローガンである「責任が生む信頼、繋がりが生む力」を念頭にスタッフ一丸となって質の高い医療・看護を提供していきたい。

3 階病棟

■スタッフ

看護師	21名
ドクターズクラーク	2名

師長 八 木 晶 子

■部署紹介

3 階病棟は50床の眼科・内科の混合病棟である。内科・眼科では業務内容が異なるためパスの活用や医師をはじめ、他職種と連携し最適な看護を実施している。視力障害や高齢者の患者様が多く、転倒予防や認知症ケアに留意しながら安全・安心な医療サービスを提供できるよう日々取り組んでいる。

■取り組み

1. 2階病棟との連携強化
 - ・他部署の業務を経験する
 - ・お互いの情報交換をする
2. 有効なカンファレンスの実施

■所感

令和6年度の「選ばれる病院になる」というスローガンを念頭に取り組んだ。有効なカンファレンスでは、入院時カンファレンスだけではなく中間や退院前カンファレンスの開催が増加した。特に退院前カンファレンスではケアマネージャーや訪問看護スタッフを交え患者様・家族様にとって一番良い方法をチーム医療で提供する事ができた。

連携強化では3名のスタッフを2病棟（眼科・産婦人科病棟）へ派遣した。スタッフからは眼科患者様の対応方法の相違や産婦人科の特色等学びがあったと多くの意見があった。また、2階病棟からも派遣があり、工夫している事など情報共有する事ができた。この学びを今後患者に還元できるよう医療サービスの向上に取り組んでいく。

眼科では新たな術式も加わり勉強会の開催や自己研鑽に励み、より質の高い医療サービスが提供できるよう一丸となり取り組んだ。

看護研究では糖尿病教育入院の指導改善に取り組み、個別性や統一した看護が提供できるよう取り組み発表できた。

令和7年度は外来や手術室へと見学規模を拡大し患者様の動きを多角的に把握することで病棟看護に活かす。更なる医療サービスの向上のため自己研鑽への取り組みや接遇を見直しスローガンである「責任が生む信頼、繋がりが生む力」に向かって邁進していきたい。

手術室・中央材料室

■スタッフ

看護師	11名（非常勤2名）
看護助手	4名（非常勤1名）

師長 福 羅 昭 子

■部署紹介

手術室は、眼科・産婦人科手術を主体に、安心して安全な医療体制で業務にあたっている。眼科手術では、非常勤医師を迎え、涙道手術眼形成手術が強化された。

産婦人科では、帝王切開を中心に、子宮鏡下手術・開腹手術・腹腔鏡手術も行っている。

中央材料室では、自動洗浄装置、高圧蒸気滅菌器、過酸化水素ガス滅菌器、EOG滅菌器を配置しており、院内のすべての器材を洗浄・組立て・滅菌をし、各部署に払い出しをしている。また、専門的な知識の習得をし、常に厳しい目で病院の要として、安心安全な器材の提供が出来るよう努めている。

■取り組み

1. 安心安全な医療の提供
2. 看護研究：全身麻酔小児看護の取り組み
3. 業務改善
4. 値上がりに対するコスト削減の取り組み

■所感

令和6年度は、病院スローガンである「選ばれる病院になる」を念頭に取り組んだ。選ばれる病院になるためには安心安全な医療を提供しなければならない。看護師の専門的な知識や技術はもちろん、信頼のおける医療機器も重要である。手術室・中央材料室では、使用している機器類が10年を超え、全身麻酔用の麻酔器・生体モニター・眼科手術台が更新された。眼科手術台は全身麻酔にも対応できるものになり、局所麻酔から、全身麻酔への移行も短時間でスムーズに出来るようになった。また中央材料室では過酸化水素ガス滅菌器の更新を行い、引き続き安心安全な器材の提供が出来た。

看護研究では、全身麻酔の小児が泣かずに手術室に入れるよう、看護研究チームが中心となり、プレパレーションを作成した。手術が決定したら、疑似体験ができる絵本を渡し手術日まで、繰り返し読んでもらった。また術前訪問、入室時の工夫なども取り入れ、皆で取り組んだ結果、約9割の小児が泣かずに入室でき、麻酔導入がスムーズになった。母として働くスタッフの一人一人の思いの結果が形になった研究であったと考える。

今後も目の前の患者様に寄り添った看護が出来るよう、一人一人が成長していく。



事務部

事務部

事務部長 黒 肱 朋 子

■取り組み

1. 相互理解を深める
2. 知識、モチベーションの向上
3. 有休消化率の向上

■所感

事務部では、令和6年「選ばれる病院になる」というスローガンのもと、これまでの課題に向き合い、改善に取り組んできた。

事務部は医事課と総務課から構成されており、さらに医事課内でも担当診療科毎に交流の機会が限られていた。そのため、事務部間の相互理解を深めることを目的に、役職者ミーティングを月1回開催し、情報共有や課題について相談できる場を設けた。こうした取り組みにより、各部署間の連携が強まり、より円滑な業務遂行が可能になった。また、他部署見学を通じて役職者間の業務理解を促進した。今後は一般職員にも対象を広げ、組織全体の連携強化を図っていきたい。

知識向上とモチベーション強化を図るため、接遇の専門外部講師を招き、接遇研修を実施した。多くの職員が参加し、好評を得ることができた。外部研修は業務に影響を与えるため限られた人数でしか参加できない雰囲気があったが、院内での開催により受講しやすくなったという声も聞かれた。こうした研修を定期的の実施することで、病院全体のサービス向上につなげていきたい。

働き方改革の一環として、有休消化率の向上にも取り組んだ。全員が60%以上の消化を目指し、結果として全体で75%の消化率を達成した。しかし一部の職員、とりわけ役職者の消化率が低い傾向にあったため、来年の課題として改善を図りたい。柔軟な勤務体制の導入や業務効率化を進め、すべての職員が適切に有給休暇を取得できる環境を整えていきたいと考えている。

病院事務部は、医療行為そのものは行わないものの、病院の運営や経営を支える基盤業務を担っている。各専門職が円滑に医療業務を行えるようサポートし、患者様に安心と信頼を提供することが、事務部の重要な役割と考える。今後も事務部の強みを活かし、業務効率の向上と職員間の連携を深め、病院全体の発展に貢献していきたい。

総務課 総務経理室

■スタッフ

9名

事務部長 黒 肱 朋 子

■部署紹介

総務経理室では、①人事労務管理事務、②経理、③広報、④教育及び採用企画、⑤施設及び資産の管理・運営・保守、⑥庶務など、様々な院内外に関連する業務を行っている。また、管理事務の領域に留まらず、常に診療・医事と連携及び情報収集を行い法人の運営が円滑に行うことが出来るよう尽力する役割を担っている。

■取り組み

1. 人材の確保、入職後のフォロー
2. 電子納税の利用
3. ホームページリニューアル
4. 患者様駐車場移設工事

■所感

人事労務管理部門では、新入職員がスムーズに職場環境に適応し、円滑に業務を開始できることを目指し、入職前オリエンテーションの内容を全面的に見直した。入職後2年以内の職員を対象にアンケートを実施し、新入職者の視点から必要な情報を精査、その結果をもとに、業務の流れや法人・病院についての的確に理解できる内容へと改編した。

経理部門では、納税の一部を金融機関窓口処理から電子納税への切替えを実施した。届出処理などの事前準備に時間と手間を要したが、導入後は納税準備の事務負担が軽減され、時間に余裕を持って処理できるようになった。今後は他の納付処理も電子納税を活用していきたい。

広報部門では、5月にホームページを全面リニューアルし、ユーザビリティと情報発信力の向上を図った。閲覧者の導線に配慮し、視認性を高めるレイアウトを採用することで、伝えたい内容が明確に伝わるデザインを実現。コンテンツも充実させ、最新情報や重要な通知を分かりやすく整理した。さらに、今後はアクセス分析を実施し、訪問者の傾向を把握しながら、より利用価値の高いホームページへと進化させていきたい。

総務課は院内の現状把握だけでなく、他施設の情報や医療業界全体の動向の情報収集にも努め、これらの情報を分析し、職場環境の改善へとつなげていけるよう、継続的に取り組んでいく。

総務課 情報システム室

■スタッフ

2名

中 村 卓

■部署紹介

当院は平成17年より電子カルテシステムを導入しており、現場職員が医療情報システムを円滑に利用し、安心して診療が行えるよう、各種システム、端末機器、院内ネットワークの保守管理を担っている。また、トラブル時には迅速に対応し、早期復旧を目指している。

これらの基本的な知識を日々の診療に活かせるよう日々の問合せ対応や新入職者のオリエンテーションを実施し、医療の高度化に伴い急速に進歩し続ける最新のICTに対応できるよう努めている。

■取り組み

1. 外来Wi-Fiの拡充・モバイル端末の導入
2. 外線電話録音機器導入
3. 自動精算機・再来受付機・エコー機器入替による連携見直し
4. Windows UpdateによるWeb遅延対策
5. 電子カルテユーザー交流会での発表

■所感

令和6年の病院スローガン「選ばれる病院になる」のもと、主に上記5点を実施した。

6月より眼科で実施していた患者呼出システムを、各外来へ展開することとなり、各外来にもWi-Fi機器を設置。また電子カルテ側の端末も利用できるよう同時に拡充したことで、場所を選ばず電子カルテやモバイル端末が使用でき、今後外来にてWi-Fi利用機器も導入可能となる。

プライバシー保護の観点や品質向上を目的とした外線電話の録音機器を設置した。録音だけでなく発信内容や電話待機など分析も可能となり、電話が集中する時間を把握し傾向を調べることで、今後の患者様の満足度向上を可能とした。

今年は自動精算機、再来受付機の入替を行い、電子カルテと連動する部分であるため接続の再構築、また新システムに伴い設定を一新した。エコー機器について、以前は画像ファイリングシステムへ保存されていたが、この度PACSへ集約することでDICOMでのCD作成が対応可能となる。

毎月1回ネットワークPCのアップデートにより、翌午前中は通信速度が極端に下がり利用困難となっており支障が出ていた。今回セキュリティ機器のプラン見直しにより、影響が少ない接続方法へ刷新するとともに、使用していたグローバルIPも統合することでランニングコストダウンも実現した。

情報システム室として、電子カルテユーザー交流会で「緊急時対策～災害時のカルテ参照～」を発表し、昨今重要視されているBCP対策の実施や策定を他施設の方々に情報提供することで、同ユーザーのBCP対策に貢献した。

利便性の向上が強化された一方で、依然としてランサムウェアによる被害は続いており、より一層のセキュリティ対策の強化が求められる。安全でよいパフォーマンスが出せるように形にとらわれず柔軟な発想で今後も取り組んでいく。

医事課

■スタッフ

医事・健診・セクレタリー職員 46名
 （令和7年4月現在 パート職員・休職含む）
 （統括1名）（眼科外来12名）（産婦人科外来8名）
 （内科健診10名）（入院担当4名）
 （受付・地域連携担当8名）（病棟医師事務補助3名）

課長 福島 一 志

■部署紹介

総合受付・会計、病棟および外来の眼科、産婦人科、内科、健診科の受付・セクレタリー業務・会計入力、地域連携、入院医事業務まで総合的に行う部署である。

■取り組み

1. 外来呼び出しシステムの全科運用
2. 外来予約システムの開始
3. マイナ保険証確認対応
4. 新紙幣対応型精算機の導入・新型再来受付機の導入
5. 新診療報酬改定内容への取り組み

■所感

令和6年度は、これまで眼科外来のみで運用していた呼び出しシステムを全科へ拡大した。また、外来予約システムの導入、新紙幣対応型自動精算機の設置、新型再来受付機の導入、そしてマイナ保険証の義務化など、多くのシステム的な変更を実施した。運用開始前は懸念すべき点が多かったものの、導入後は概ね好評であり、患者様の利便性向上と満足度の向上に貢献できたと考える。今後もこのような改善を積み重ねていきたい。

令和6年度の診療報酬改定は、当院を含む中小医療機関にとって全く利点がなく、過去に例を見ないほどの大幅なマイナス改定となった。特に、特定疾患療養管理料の改定に伴い生活習慣病管理料へ移行したこと、短期滞在手術等基本料1が1359点も減点されたこと、さらに外科・整形外科を持たない当院にとって看護必要度の変更が大きな影響を及ぼし、結果として入院基本料が1から5に引き下げられる事態となった。

そのため、従来の運用を見直し、早急に対応しなければ大幅な減収は避けられない状況であった。改定内容公表後、即座に改善点を整理し、上層への報告、現場への共有と運用見直しを図ったことで、結果として昨年と遜色ない収益を維持することができた。医事課の主な役割は初期の計画立案だが、改定により見直すべきことを病院全体が理解し一丸となって迅速に対応できる環境が整っていたことが成功の要因といえる。次期改定に向けても、持てる環境のもとで最良の結果を出せるよう、今回同様に取り組んでいきたい。

診療情報管理室

■スタッフ

診療情報管理士 3名

副主任 大 平 勇 也

■部署紹介

診療情報は診療の継続、医療従事者の研究および教育、病院経営、公衆衛生の向上等において大変重要なものである。診療情報管理室では、個人情報管理部門としての役割も担っており、厳重に守秘されるべき患者様の診療記録を法律や規則に従い、適切に管理するため診療情報に不備が無いか日々点検している。また、蓄積された診療情報を元に統計を作成しそれを自院や公的機関にフィードバックすることで、医療の安全管理や質の向上および病院経営管理などに寄与しているほか、患者や公的機関からのカルテ開示依頼にも対応している。

■取り組み

1. 診療録管理
2. DPC病名付与・データ提出
3. 全国がん登録
4. 患者・公的機関からのカルテ開示
5. 改正個人情報保護法に係る情報発信と院内の業務改善協力
6. 看護必要度集計・分析
7. 個人情報一括廃棄対応
8. 公的機関の立ち入り調査対応

■所感

令和5年から診療情報管理室は2名から3名体制となったため、本年は2つの目標を掲げた。1つ目は「3人の業務情報の共有および属人化の解消」である。情報共有ツールとしてExcelに各自の業務を書き込むことで、現在・未来の業務が可視化されスケジュール管理が容易になった。また引継ぎを活発に行ったことで、開示や統計業務など3名共が対応できる業務が増えた。目標である属人化解消の一步を踏み出すことができた。

2つ目は「資格取得」である。個人情報管理能力の向上のため、3名の内2名が個人情報保護士を取得した。得た知識を活用し、1年を通して全職員へ個人情報保護に関する情報を発信した。10月には近畿厚生局、11月には全国健康保険協会の立ち入り調査が行われたが、個人情報の管理体制について監査人から高い評価を受けた。資格取得により個人の能力が向上し病院運営に良い影響を与えた。今後も病院の発展に貢献できるよう、個人情報のみならず多角的な視点で知識を深め、積極的に情報共有を続けていく。

秘書室

■スタッフ

1名

主任 幸 田 ちあき

■部署紹介

秘書室は、常勤・非常勤医師のスケジュール管理を中心にアポイント調整、来客対応、挨拶状や文書作成など、医師が業務に専念できるよう環境づくりに努めている。また、医師スケジュールの情報発信源となる部署である為、正確な情報を発信するよう細心の注意を払い取り組んでいる。

■取り組み

1. 業務の無駄をなくす
2. 各医師のスケジュール管理、所在確認、面談予約の調整
3. 医局会、各科ミーティングの準備補助、学会誌、郵便物の仕分け
4. 各科の学会年間スケジュール案内、勉強会案内の医局内掲示、講演会や学会発表及び参加記録
5. 環境整備

■所感

令和6年のスローガン「選ばれる病院になる」のもと、職員一人一人がそれぞれの立場から病院の価値向上に努めることが求められた。秘書室としても、このスローガンの実現に向けてどのように貢献できるかを考え日々の業務を見直し、改善に取り組んだ。

まず、先生方が日々の業務を少しでも快適に、そして効率的に行えるよう、環境整備に力を入れた。不要になった書類や物品を廃棄し、必要なものを整理整頓するなど仕事に集中できる空間づくりを心掛けた。

次に、業務の効率化にも注目した。特に資料作成においては、これまで同じ内容を転記するという非効率な作業が発生していたが、それを見直し、転記作業をなくす仕組みに変更した。データの一元管理により、作業時間の短縮だけでなく転記ミスの防止にもつながり、正確性が向上した。

これらの取り組みは、決して目立つものではないが「選ばれる病院」であるためには、日々の小さな改善を積み重ねることが不可欠である。今後も秘書室として「選ばれる病院になる」の実現に向け、日々の業務に誠実に取り組むとともに、小さな事にも目を配り、組織全体の価値向上に貢献していきたい。 -



医療安全管理室

医療安全管理室

■スタッフ

医 師	2 名	放射線技師	1 名
薬剤師	1 名	事務部	2 名
看護師	5 名	診療情報管理室	1 名
助産師	2 名	システム室	1 名
管理栄養士	1 名	臨床工学技士	1 名
医療ソーシャルワーカー (MSW)			1 名

三 谷 育 美

■部署紹介

医療安全管理室は、あさぎり病院の理念に基づき、患者様に安全な医療サービスを提供するため、インシデントレポートの情報共有、多種職で連携・協力し、患者様と医療者が共に安心して治療に専念できる医療環境を作ることとして活動している。

■取り組み

1. 県立がんセンターとの I-II 連携相互評価
2. 転倒、転落予防への取り組み
3. 医療安全業務改善年間計画の整備

■所感

まず、県立がんセンターとのI-II連携相互評価では、訪問形式での相互評価を行った。事前の書面での評価をもとに、実際の現場での取り組みを見てもらうなど、有意義な意見交換の場となった。職種に関わらずインシデント報告があり、他職種で医療安全に取り組んでいること、心理的安全性についての研修を行うなど安全のシステム構築がされているとの評価を受けた。今後も継続して取り組んでいきたい。

次に、転倒・転落のヒヤリハット報告事例の増加を受け、原因を分析したところ、院内で転倒を起こす可能性のある箇所、修繕が必要な箇所があることが判明した。適宜環境整備と必要箇所の修繕を行った。また、転倒事故防止や事故の影響を最小限にするための対策について院内研修会を実施し、職員全体に対策の必要性を周知することができた。

最後に、約6年ぶりに近畿厚生局適時調査が行われた。現状の取り組みへの指摘事項について委員会で検討・修正を行った。その一つとして、次年度より新たに各部門ごとに医療安全業務改善年間計画を立てることとし、そのためのシステム構築とマニュアル整備を行った。今後も継続して医療安全へ尽力していきたい。

委員会

感染防止委員会

佐々木 愛

■委員会紹介

感染防止委員会は、安全な環境を維持するために、日々の衛生管理や感染症発生時の対応に備えている。院内の感染対策の現状を把握し、問題点を改善するための対策を講じるなど、総合的な感染防止活動を行っている。活動の中心となっているのは、ICDを含むICTメンバーであり、週1回の院内ラウンドを実施し、感染症患者の状況を確認するとともに、抗菌薬の使用状況を把握している、また、職員の手指衛生の確認や指導を行い、院内の感染リスクを最小限に抑える取り組みをしている。さらに、年4回の感染防止対策地域連携カンファレンスへの参加を通じて、他の施設と情報交換を行っている。カンファレンスでの検討内容や保健所からの最新情報を共有し、院内の感染防止対策の強化に役立てている。

■取り組み

1. 新型コロナウイルスクラスター対応
2. ICTによる院内ラウンド（1回/週）
3. 各部署への感染防止ラウンド（2回/年）
4. 職員への教育（年2回の院内研修会、新入職研修会）と啓蒙活動
5. 感染対策向上加算2取得
6. 感染防止対策地域連携カンファレンスへの参加（年4回）
7. PPE、抗菌薬、消毒薬、感染症検査等の管理
8. 職員のワクチン接種、針刺し事故後フォローアップ

■所感

新型コロナウイルス感染症の流行4年目で初めて当院でもクラスターが発生した。5類移行後も感染対策を継続していたが、クラスターが発生した。感染対策の見直しを行い、職員への指導や備蓄品の整備を改めて実施した。

年4回行われる感染防止対策地域連携カンファレンスに参加し、指導・助言を受けながら当院のマニュアルの見直しを行っていた。さらに、新興感染症訓練にも参加し、得た知識を院内の感染防止対策の研修会に取り入れ、年に1回は実施訓練を開催することとなった。また、近隣施設と連携体制を強化し、研修会や訓練への参加を促した。

明石医療センターによる感染防止対策地域連携加算ラウンドでは、抗菌薬の適正使用についての意見交換をすることができ、さらに、ラウンドでのアドバイスを受け、環境の見直しを実施した。

引き続き、全職員一丸となって感染防止に取り組みたい。

●2024年感染防止委員会活動状況

1月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員ワクチン接種（麻疹・風疹・水痘・ムンプス） ・職員B型肝炎抗体価判定（2023年度ワクチン接種者）
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド ・感染防止対策地域連携カンファレンス参加 ・院内研修会「ノロウイルスの取説～基礎知識から処理方法まで～」 ・「感染対策向上加算2」算定開始
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止マニュアル改定
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員健診 ・新入職者研修「感染防止について」
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員ワクチン接種（麻疹・風疹・水痘・ムンプス） ・医療措置協定締結 ・感染防止対策地域連携カンファレンス参加
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員ワクチン接種（HBワクチン1回目） ・感染防止対策地域連携カンファレンス参加 ・近隣施設と協力体制開始
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員ワクチン接種（HBワクチン2回目）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策地域連携カンファレンス参加 ・感染防止マニュアル見直し ・院内研修会「今HOTな感染症の話」 ・院内ラウンド
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザワクチン接種開始（職員・患者） ・新型コロナワクチン接種開始（患者・職員） ・近畿厚生局適時調査
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策地域連携加算ラウンドの実施 ・感染防止対策地域連携カンファレンス参加 ・医療監視
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員ワクチン接種（HBワクチン3回目）
2025年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員ワクチン接種（麻疹・風疹・水痘・ムンプス） ・職員B型肝炎抗体価判定（2024年度ワクチン接種者）
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド ・感染防止対策地域連携カンファレンス参加 ・感染防止委員会資料をI-Padでの閲覧方法へ変更
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・院内研修会「新興感染症なんて怖くない！」PPE実技演習含む

医療の質向上・ 教育委員会

黒 肱 朋 子

■委員会紹介

教育部門を総括し全職員の研究活動について内容検討、立案、実施、評価を行い、より高度なチーム医療の構築を進めている。医療の質向上によって安全を目指すのが当委員会の目標であり、安全に関しての要である医療安全管理室が機能を十分活かしていけるよう、教育と安全の両輪が協調してスムーズに前進することを第一と考えている。この目的で研究会、業務改善・研究発表会の企画開催が本委員会の大きな役割である。

■取り組み

1. 研修会・研究発表会の開催
2. 学会発表

■所感

本年の院内研修会実施件数は回覧も含め16件であった。院内研修会では、衛生委員会と協力し外部講師によるコミュニケーション研修を開催した。講義スタイルのみではなく、グループディスカッション等も取り入れた研修も開催し、多くの職員が参加し好評を得た。また、昨今問題となっているハラスメント防止のため、顧問社労士に依頼し、専門的な研修を実施した。職場におけるハラスメントの定義や事例を紹介しながら、適切な対応方法や防止策について学ぶ機会を提供した。ハラスメント対策は職場環境の改善に不可欠であり、今後も継続的に啓発活動を行っていく。今後他委員会と情報交換しながら課題解決やモチベーションアップにつながる研修会を計画していきたい。

今年度の院内発表では、看護部より4題の演題が発表された。来年度は診療支援課や事務部などからも演題を募集し、より幅広い視点からの発表を促したい。

外部での発表は計4題が発表する機会を得た。また、昨年全日本病院学会で発表した演題が全日本病院協会雑誌に論文として掲載された。

今後も有意義な院内研修会運営と、積極的な外部学会への参加・発表推奨を行い、知識の習得にとどまらない日常への疑問や気づきの発見、研究発表へと繋げることで、病院全体の質向上を目指していく。

接遇癒し委員会

辰 野 友基子

■委員会紹介

接遇癒し委員会は、平成11年に発足。委員は、看護部、診療部、事務部のスタッフで構成されている。委員メンバーは約20名で活動。

患者サービスの充実と医療の向上に寄与する為、接遇研修や環境整備などに取り組み、患者様に満足を提供できるよう活動している。

■取り組み

1. 院外清掃
2. 季節の飾り付け
3. 院内の環境整備
4. 身だしなみ規定の見直し
5. 院内コンサート

■所感

当院では、患者様や職員の皆さまが季節の移ろいを感じられるよう、院内の飾り付けを行っています。病院は時に緊張感のある場所ですが、四季折々の装飾を施すことで、少しでも温かみのある空間を作り、心が和む時間を提供することを目指している。新たに装飾品を導入し、より鮮明に季節を感じていただけるよう選定した。より院内の雰囲気明るくなり、ご来院いただく皆様に季節の彩りを楽しんでいただけることを期待している。

身だしなみ規定について見直しを行い、「清潔」「安全」「他者に不快感を与えない」を前提に、清潔感を維持しながらも、多様な働き方に対応できる柔軟な方針へと改訂した。従来の規定では、服装や髪型に厳格な規定があったが、感染予防・安全性を確保しつつ、個々の快適性と働きやすさを尊重する内容へ変更した。改訂により、患者様からの信頼を損なうことなく、より良い職場環境となることを目指したい。

感染対策として長らく中止を余儀なくされていた院内コンサートが、今年より再開された。音楽は心に寄り添い、穏やかな時間を提供する力を持っています。再び院内に音楽が響いたことで、多くの患者様から「癒された」「心が和らいだ」とのお声を頂戴した。今後とも温かいひとときをお届けできるよう努める。

接遇癒し委員会は、心の触れ合いを大切にしたい環境を提供できるよう、委員だけでなく、職員一人一人が理念にのっとった行動ができるよう、今後も活動していきたい。

輸血療法委員会

千 田 佑貴子

■委員会紹介

当委員会は、「輸血療法の適応や、輸血療法に伴う事故や副作用・合併症等について検討し、適正な輸血療法を推進すること」を目的とし、2か月に1回、定期的に開催している。病院長を中心に、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、医事課職員で構成し、病院内における輸血療法が安全かつ適正に行われるよう、討議・検討している。

■取り組み

1. 輸血療法の適応、血液製剤（血漿分画製剤を含む）の選択
2. 輸血用血液の検査項目・検査術式の選択と精度管理
3. 輸血実施時の手続き
4. 血液製剤の使用状況調査、症例検討を含む適正使用推進の方法
5. 輸血療法に伴う事故・副作用・合併症の把握方法と対策
6. 輸血関連情報の伝達方法
7. 自己血輸血の推奨

■所感

スローガン「選ばれる病院になる」を念頭に、安全かつ適正に輸血療法が行われるよう、活動を進めた。

本年度の輸血件数は全科合わせて20名27件で、赤血球濃厚液、新鮮凍結血漿の使用数はそれぞれ94単位、52単位であった。前年比はそれぞれ77%、162%と、本年度は昨年度と比較し赤血球濃厚液の使用数が減少したものの、新鮮凍結血漿の使用数が大幅に増加した。その背景には輸血件数が内科は半数に減少したが、産婦人科は約1.5倍に増加したことがある。産婦人科は昨年度も増加していたため、近年増加傾向にあるといえる。また、本年度は血小板輸血が内科で20単位あった。1名に2回使用した例で、血小板輸血は当院では非常に珍しい事例であった。

発注したが未使用のまま廃棄したケースは、赤血球濃厚液で2単位、新鮮凍結血漿で20単位、自己血で8単位あった。うち、赤血球濃厚液と新鮮凍結血漿ではそれぞれ2単位ずつが患者様に使用予定で発注するも余剰となったものであり、残り18単位の新鮮凍結血漿はストック分として保管していたものであった。

副作用報告に関しては2名2件の報告があった。いずれも重篤な症状はなく、すぐに軽快した事例であった。血漿分画製剤の使用は抗D免疫グロブリン7本、フィブリノゲン3本、タコシール1枚、ボルヒール1枚で、その他の製剤は使用がなかった。

本年度は昨年度と比較し全体の輸血件数は減少したものの、廃棄数はやや増加した結果となった。今後とも在庫情報を適宜発信し、適正使用に努めていきたい。

褥瘡 NST 委員会

■スタッフ

医師	1 名	看護師	4 名
薬剤師	1 名	臨床検査技師	1 名
管理栄養士	2 名		

近 藤 恭 弘

■委員会紹介

当委員会は、院内の適切な褥瘡対策および栄養管理について討議・検討し、その効果的な推進を図るため、栄養管理チーム（=NST : Nutrition Support Team）を設置してその活動を多職種協働で行うことを目的とする。

■取り組み

1. 褥瘡の持ち込み・新規発生・発生頻度の報告・今後の予防と対策
2. 褥瘡患者の評価・処置薬剤・体圧分散部およびケア方法の検討
3. 病棟カンファレンスでの対象患者への栄養ケア

■所感

今年のスローガン「選ばれる病院になる」を念頭に、当委員会の指針に基づいた栄養管理及び褥瘡管理を実施し、メンバー内で患者情報を共有しながら最善な対応ができるよう活動を行ってきた。

最近では近隣病院からのレスパイト入院の紹介も増え、褥瘡の持ち込みや褥瘡リスク患者様も増加傾向にあり、入院時の評価による予防対策の必要性を改めて実感している。

褥瘡処置については体圧分散マットの適正使用や処置薬剤の選択、ケアの方法について関係スタッフと定期的に協議したうえで創傷改善に取り組んでいる。

栄養状態や食事摂取量が不良の患者様については、病棟にて他職種と協議して食思向上に向けて検討している。食事面では食形態や粘性を調節しながら提供するなどして栄養状態改善に取り組んでいる。栄養士が定期的なモニタリングを強化したため以前よりも介入が増えて食事摂取量増加につながる事例も増えた。

今後も入院患者様に対して栄養評価、褥瘡評価とそのリスク評価を実施し最善な対応が出来るようカンファレンスの充実を図りたい。

DPCコーディング委員会・ 医事保険委員会

榊 暁 子

■委員会紹介

DPCコーディング委員会は、DPCコーディング（適切な診断群分類の決定）に関する相談と報告を目的として設置された委員会である。当院ではコーディングに関する事だけでなく、DPCにかかわるトピックスについても報告相談を行い、また厚生労働省や近畿厚生局など公的機関が公開している病院関連の情報を収集し、現状分析に加えて院内各部署への提案を行っている。

医事保険委員会では診療報酬請求の査定と返戻内容を精査し、各診療科医師と連携して支払い側に疑義質問を行い、査定返戻への対策強化を実施している。

■取り組み

1. 適切なコーディングに関する実績報告
2. 未コード化傷病名に関する相談
3. 公的機関へのデータ提出評価
4. 診療報酬改定に伴うDPC関連情報の報告
5. 看護必要度（重症度）と一般入院基本料に関する報告
6. 診療報酬請求査定や返戻の分析・未収金報告

■所感

本年は診療報酬改定があった。その中で、DPC対象病院の施設基準に「DPCデータ数に係る基準」や「適切なDPCデータ作成に係る基準」が新たに追加された。「DPCデータ数に係る基準」ではDPCデータ提出数90以上が必要であるが、当院では200以上を常に維持できている。「適切なDPCデータ作成に係る基準」では未コード化傷病名の使用割合が年平均2%未満、詳細不明コードの使用割合が年平均10%未満のところ、当院では未コードは年平均0.3%、詳細不明コードは年平均4%と基準値以下を継続できている。

また、本改定から『機能評価係数Ⅱ（体制評価指数）医療の質向上に向けた取組』で評価される項目が、様式1や様式3の提出データ内に追加された。内容は褥瘡や栄養状態、転倒転落などで、入力には任意ではあるが、入力の正確性を確保するために関係部署や個別で勉強会を実施した。計画的に準備を進めていたことで、無事に本年6月から運用開始することができた。また、毎年10月の病院情報公開にも項目の見直しが行われたが、こちらについても遅滞なく例年通り公開することができた。

給食委員会

■スタッフ

管理栄養士	2名
医師	2名
看護師	2名

近 藤 恭 弘

■委員会紹介

当委員会は法定の委員会の一つとして位置付けられており、入院患者への食事内容の検討や衛生面を含めた給食業務全般の改善について検証することを主たる目的としている。入院患者食の充実と発展に寄与できるように医師および病棟看護師、委託給食会社の方にも一部出席していただき定期的に協議されている。

■取り組み

1. 食材費高騰による対応
2. 産科入院食への取り組み
3. 食形態および禁止食材への対応

■所感

「選ばれる病院になる」という今年のスローガンのもと、当委員会の運営に取り組んだ。

食材費および人件費の高騰が続く中、委託給食費用を更新すると共に食材の見直しを随時行い、お米についても試食をした上で取引先を変更した。サービス面では行事食の提供機会を縮小して給食会社の負担軽減を図った。

コロナ禍より中断していた産婦さんに食堂に参集してもらって食事を提供するランチを再開させた。また産後食は一般の入院食と献立内容が大きく異なる為、食事変更で産後食となる際には時間区分を設けて産後食を提供するように運用を改め、調理現場の作業効率向上を図った。

食形態が特殊な場合、調理後に変更されても他の患者様には転用できない為に食品ロスが問題となっていた。これについては変更のタイミングを延ばしてもらうよう関係スタッフに協力してもらった結果、廃棄することなく運用できるようになった。禁止食材では嗜好的な理由も散見される為、そのような場合は主菜料理のみ適用するようにしたが今のところ混乱等なく経過している。

情報管理委員会

中 村 卓

■委員会紹介

院内の情報管理に関して提案・調整・報告及びシステム全体の方向性を検討する委員会であり、情報システム室を中心に運営され、月1回開催している。具体的には、病院全体に関わる電子カルテの設定変更の承認や各部署からの依頼対応の状況報告、システム及び機器の導入に関する連絡を行う。

■取り組み

1. 患者呼出システムの各科展開
2. 外来Web予約システムの新規患者予約開始
3. こどもクリニック予約システム導入
4. 院内セキュリティ強化およびBCP対策

■所感

スローガン「選ばれる病院になる」のもと、議案書の周知方法や委員会の進行方法を見直し、より効果的な意見交換と発展が出来るようシステム導入や刷新について協議した。

眼科で先行して導入していた患者呼出システムを外来全科へ展開した。課題であった外来Wi-Fiも最小限で最大のパフォーマンスを行えるよう配置、同時に電子カルテのWi-Fiも展開したことで患者呼出システムだけでなく電子カルテでもワイヤレスな対応が可能となる。

当院ホームページより今までは予約変更、キャンセル、教室予約のみ行える状況であったが、9月より新規患者の診察予約も可能となり、患者様の予約負担軽減、また24時間予約可能で職員も電話負担軽減となる。

4月よりこどもクリニックが診察再開となり、こちらは以前よりWeb予約を行っていなかったが、小児科ワクチン管理の重要性も鑑み、この度導入となる。導入の際、当院で使用しているシステムを検討するが、より患者様への安全を考慮し、目的に特化した新たなシステムを導入する。

ここ数年、全国の病院でサイバー攻撃による診療停止の問題が続いており、脆弱性対策として当院で使用しているVPN機器のアップデートを継続して行っており、ネットワーク環境維持に努める。また、BCP対策としてデータセンターを活用したオフサイトバックアップを行っているが、バックアップの内容について業者と共に確認を行う。さらにフォルダについてはSSDを準備し定期的にバックアップすることで、オフラインバックアップと合わせた保存となる。

衛生委員会

黒 肱 朋 子

■委員会紹介

当委員会は労働安全衛生法、労働基準法等に準じて運営されている。コンプライアンス順守を原則とし、法令への迅速で適正な対応を行っている。委員会メンバーとしては、病院長、副院長を中心とし、医師・診療支援課・看護部・事務部の中から各代表者を選出し、当院の組織上横断的な構成となっている。

■取り組み

1. 労務関係

ワークライフバランスへの取り組み

健康経営優良法人認定への取り組み

2. 労働安全衛生関係

ストレスチェック

外部講師による研修会開催

労災発生事例の共有と対策

職員健診

■所感

スローガン「選ばれる病院になる」のもと、働く職員から選ばれることを目指して取り組んだ。労働時間の管理や有給休暇の取得状況の把握、計画的な有給取得の推進など、ワークライフバランスへの取り組みを続けている。昨年に引き続き、経済産業省健康経営優良法人認定も無事受けることができた。

職場環境のさらなる向上に向けて、組織内の人間関係の改善も重要な課題として認識している。ここ数年、特に上司と部下の関係性に関する悩みを抱える部署が多く見受けられることから、協会けんぽの健康講座を活用し、外部講師によるコミュニケーション研修を実施した。また、経済産業省の施策である心の健康関連サービス導入支援事業へ参画し、カウンセリングを通して人間関係の改善に向けた取り組みを進めた。

今後も、職員の声をより積極的に収集し、院内の課題を正確に把握することで、より実効性のある改善策を検討していきたい。職員が心身ともに健康で、いきいきと働ける職場を実現するためには、制度の整備だけでなく、職場の風土そのものを改革していく必要がある。そのため、働く職員が「選びたい」と思える環境を築くために、引き続き多角的なアプローチで取り組みを進めていく。

倫理委員会

田 中 あゆみ

■委員会紹介

当委員会は、臨床倫理委員会と医学系研究倫理委員会の両方の役割を担い、臨床現場における倫理的問題への対応と医学系研究の倫理審査を行っている。医学系研究の倫理は「人を対象とする生命科学・医療系研究に関する倫理指針」に基づいて審査しており、臨床倫理については主に臨床倫理コンサルテーションチームが現場で対応し、適宜報告・相談を受けている。構成員は院内4名、院外2名の計6名からなり、任期は2年である。

■取り組み

1. 医療倫理の迅速な審査
2. 心理的安全性の確立
3. 臨床倫理支援の強化

■所感

臨床倫理委員会としては、産婦人科での母体保護法による人工妊娠中絶・不妊手術と眼科での羊膜移植を申請・審議対象とした。身体拘束事案は臨床倫理コンサルテーションチームが現場で迅速に対応し、必要に応じて適宜当委員会へ報告とした。また、出生前診断のための他院への紹介例、兵庫臍帯血バンクへの臍帯血献血も報告対象としている。研究倫理委員会としては、以下の臨床研究について申請があり、すべて承認とした。今後は倫理教育の充実を図るため院内研修会の開催も考えたい。

臨床研究

- 6月 2階病棟 産後早期からの入浴は、産後うつ病の予防に効果があるのか
- 6月 眼科外来 視力検査アプリの有用性について
- 8月 産婦人科 当院における無痛分娩の現状と安全性について
- 12月 眼科 眼内レンズ落下の際に使用する鑷子の工夫について

診療材料管理委員会

西 川 弘 規

■委員会紹介

当委員会は、年2回行われる診療材料の棚卸に合わせて開催されている。診療材料の納入業者からのデータを基に、診療材料の定数、使用状況、不動物品、使用期限切れ物品などを把握し、効率よく無駄なく使用できるように適正配置を目指している。

また、納入業者と常時情報交換を行い、定期開催以外でも各部署への情報発信を行っている。

■取り組み

1. SPD物品管理
2. SPD外物品管理
3. 物品内容の見直し
4. 在庫の適正化

■所感

物価高の影響で値上げとなる物品が多く、1年を通して納入業者やメーカーと交渉を行った。当院専用物品については汎用品とのコスト比較、安定供給、安全性や機能性を各部署協力のもと検証した上で入替を行った。

直近棚卸時におけるSPD物品は紛失6品、期限切迫3品、不動物品11品、アイテム数前年比△6品という内容であった。

SPD物品の紛失対策として物品棚の整理、定数の見直しを行うなど運用方法を一部変更した。

次年度も引続き当委員会にて診療材料の適正な使用と管理に努め、診療内容の向上と経営改善を図る。

学会・研究発表

■学会発表（医師）

1) コメンテーター

明石 健吾

第5回神戸膠原病・リウマチカンファレンス
ホテル ラ・スイート神戸ハーバーランド
R6.1.12

2) シリコンマイクロチューブを使用した眼内レンズ強膜内固定術眼外法

長谷川 実茄

第47回日本眼科手術学会学術総会
国立京都国際会館
R6.2.2～4

3) リウマチ内科医の乾癬診療いっちょかみ～患者さんのその症状、困っていませんか？～

明石 健吾

乾癬診療連携セミナー in Akashi
ホテルキャッスルプラザ西明石
R6.2.22

4) (一時限目) 座長 (二時限目) 膠原病症例から学ぼう (2)

明石 健吾

神戸膠原病リウマチ内科医養成教室
ホテルモントレ神戸
R6.3.1

5) 人生100年時代をいきいきと楽しむために～女性のライフステージと健康寿命～

田中 あゆみ

女性の健康週間 兵庫県女性の健康セミナー
スペースアルファ三宮
R6.3.3

6) 座長

明石 健吾

第6回自己免疫性疾患の診療連携を考える会 in 明石
WEB開催 (於: あさぎり病院)
R6.3.7

7) 時々役に立つ? 関節炎診療における自己抗体検査のお話

明石 健吾

第22回東播リウマチ診療連携研究会
WEB開催
R6.3.14

8) (特別講演) 悩みの尽きない関節炎診療～脊椎関節炎の話も少々～

明石 健吾

明石市医師会学術講演会

明石市医師会館

R6.4.11

9) その症状、好酸球性多発血管炎性肉芽種症 (EGPA) じゃないですか？

明石 健吾

EGPA manegement web seminar

WEB開催

R6.5.30

10) リウマチ内科からみた乾癬診療～覚えておきたい「P・S・A」の話～

明石 健吾

UCB Psoriasis Web Seminar in HYOGO

WEB開催

R6.6.27

11) 膠原病内科医が日々悩んでいる関節炎診療

明石 健吾

第15回北播磨リウマチ懇話会

小野市・加東市医師会館

R6.7.18

12) 当院における無痛分娩の現状について

田中 あゆみ

第98回兵庫県産科婦人科学会総会ならびに学術集会

オンラインセミナー、兵庫県医師会

R6.8.10～11

13) 司会

明石 健吾

第2回神戸RAフロンティア ～中堅医師でリウマチ治療を語る会～

ANAクラウンプラザホテル神戸

R6.8.23

14) 座長

明石 健吾

第7回自己免疫性疾患の診療連携を考える会 in 明石

WEB開催

R6.9.19

15) 前眼部OCTを用いたプリザーフロ術後の濾過法の観察

明石 梓

第35回日本緑内障学会

アクリエひめじ

R6.9.20 ~ 22

16) コメンテーター

明石 健吾

第6回神戸膠原病・リウマチカンファレンス

WEB開催（於：旭化成ファーマ株式会社 医薬神戸支店 会議室）

R6.9.27

17) (特別講演) PsO・PsAにおけるIL-23阻害の意義について考えてみた

明石 健吾

西神戸播磨乾癬連携セミナー

ホテルキャッスルプラザ西明石

R6.10.17

18) 膠原病リウマチ性疾患と口腔内病変

明石 健吾

第12回膠原病リウマチジョイントカンファレンス in KOBE

ANAクラウンプラザホテル神戸

R6.10.25

19) 座長

田中 あゆみ

明石・加古川・高砂産婦人科医会学術講演会

グリーンヒルホテル明石

R6.11.16

20) 座長

明石 健吾

Lilly RA Conference in Hyogo ～高齢者リウマチの治療戦略を考える～

WEB開催

R6.11.21

21) 一般講演 座長、ミニレクチャー 座長

明石 健吾

第12回北播磨アカデミー

ホテルクラウンパレス神戸

R7.1.31

22) 座長

徳永 敬司

第2回阪神淡路地区症例検討会
神戸国際会館
R7.2.15

23) 結石及び睫毛を伴う涙腺導管炎の一例

長谷川 実茄

第2回阪神淡路地区症例検討会
神戸国際会館
R7.2.15

24) 忘れないようにしたいPsAの話

明石 健吾

UCB Webセミナー～ AIと人との化学反応～
WEB開催
R7.3.4

25) 睫毛迷入による涙腺炎の一例

長谷川 実茄

第43回神戸市立医療センター中央市民病院眼科
神戸アイセンター病院オープンカンファレンス
神戸市立医療センター中央市民病院
R7.3.8

■掲載（医師）

1) こっそり相談室 「目の乾き」の予防・対策 監修

窪谷 日奈子

富士薬品 健康通信 2024.1

2) 年女を迎えて -震災に始まった新年-

藤原 りつ子

兵庫県眼科医会報 第242号 令和6年1月

3) 明石市医師会に在籍 -三代女系女性医師-

藤原 りつ子

明石市医師会ジャーナル 2024.3.1 No.103

4) 理事就任のご挨拶

明石 梓

兵庫県眼科医会報 第243号 令和6年4月

5) こっそり相談室 正しい「目の洗浄」 監修
窪谷 日奈子

富士薬品 健康通信 2024.7

6) 白内障術後不満に対し眼内レンズ入れ替えが奏効した視覚依存性前庭障害の1例
森井 香織先生の共同演者

臨床眼科 2024 9 Vol.78 No.9

7) 還暦を迎えた産婦人科女医のひとりごと
田中 あゆみ

明石市医師会ジャーナル 2024.12.1 No.106

■講義・講演（医師）

1) 助産診断学

野原 当

姫路大学 看護学部助産師コース講義
姫路大学
R6.4.11

2) 助産診断学

野原 当

姫路大学 看護学部助産師コース講義
姫路大学
R6.4.18

3) 助産診断学

野原 当

姫路大学 看護学部助産師コース講義
姫路大学
R6.5.9

4) 助産診断学

野原 当

姫路大学 看護学部助産師コース講義
姫路大学
R6.5.16

5) 助産診断・技術学 I（妊娠期の超音波による診断技術）

池野 慎治

兵庫県立総合衛生学院 助産学科 講義
兵庫県立総合衛生学院
R6.5.15

6) おとなになる前に知っておきたい性と生理のこと 2024

田中 あゆみ

性教育講義
神戸国際高等学校
R6.6.26

7) 自分らしく生きるを実現するために～ヘルスリテラシーを高めて誰もが輝ける社会へ～

田中 あゆみ

あかし女性応援セミナー&異業種交流会（あかし女性応援ネット）
ウィズあかし
R6.7.20

8) おとなになる前に知っておきたい生と性と生殖のこと

田中 あゆみ

性教育講義
滝川第二中学、高等学校
R6.10.9

9) おとなになる前に知っておきたい生と性と生殖のこと

田中 あゆみ

性教育講義
神戸国際中学校
R6.10.23

10) 眼科医療について ～視能訓練士として働く前に知っておいてほしいこと～

明石 梓

神戸総合医療専門学校ORT講義
神戸総合医療専門学校
R6.12.13

11) 産婦人科領域の薬物治療 ～講演者のホルモン補充療法（HRT）を中心に～

田中 あゆみ

明石市薬剤師会研修会
R7.1.23

■学会発表（医師以外）

1) 緊急時対応～停電時のカルテ参照～

中村 卓

第15回SSユーザーシステム管理者部会
ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター
R6.8.17

2) 小児における簡易視力検査アプリの有用性について (ポスター)

藤本 愛子、川崎 真奈美

第65回日本視能矯正学会
ライトキューブ宇都宮
R6.11.2 ~ 3

3) 産褥早期における神経因性膀胱発症のリスク因子と携帯エコーを用いた残尿測定の有用性について (ポスター)

田口 真理、村上 仁奈

第128回日本産科麻酔学会学術集会
大宮ソニックシティ
R6.11.30 ~ 12.1

4) 理学・作業療法士が関わり産後尿失禁が早期改善した無痛分娩症例 (ポスター)

KO'A 松本 枝里香、宿南 有耶、井原 史子

第128回日本産科麻酔学会学術集会
大宮ソニックシティ
R6.11.30 ~ 12.1

■掲載 (医師以外)

1) 緊急時対応～停電時のカルテ参照～

中村 卓

全日本病院学会雑誌Vol.35- 1 2024

■講義・講演 (医師以外)

1) 病院紹介 ～オートクレーブ、ガス式ボイラーと電気式ボイラーを比較して～

福羅 昭子

第45回神戸中材業務研究会
神戸ポートオアシス5階
R6.11.30

2) 白内障手術における視能訓練士の関わり

和 里桜

神戸総合医療専門学校ORT講義
神戸総合医療専門学校
R6.12.13

学会・研究会参加実績

■学会・研究会参加実績（医師）

期間	学会名	場所	部署名	氏名
2／1 ～4	第47回日本眼科手術学会学術総会	国立京都国際会館	眼科	藤原りつ子
2／1 ～4	第47回日本眼科手術学会学術総会	国立京都国際会館	眼科	長谷川実茄
4／18 ～21	第128回日本眼科学会総会	東京国際フォーラム	眼科	長谷川実茄
4／19 ～21	第128回日本眼科学会総会	東京国際フォーラム	眼科	藤原りつ子
5／13 ～6／12	第128回日本眼科学会総会	オンデマンド配信	理事長	明石 梓
5／1 ～31	第76回日本産科婦人科学会学術講演会	オンデマンド配信	産婦人科	池野 慎治
5／1 ～31	第76回日本産科婦人科学会学術講演会	オンデマンド配信	産婦人科	清水奈都子
5／1 ～31	第76回日本産科婦人科学会学術講演会	オンデマンド配信	産婦人科	原 友美
5／13 ～6／12	日本眼科学会専門医制度 第79回講習会	オンデマンド配信	眼科	藤原りつ子
5／13 ～6／12	日本眼科学会専門医制度 第79回講習会	オンデマンド配信	眼科	長谷川実茄
5／13 ～6／12	日本眼科学会専門医制度 第79回講習会	オンデマンド配信	理事長	明石 梓
5／17 ～6／28	第67回日本糖尿病学会年次学術集会	オンデマンド配信	内科	弓岡 稔貴
6／10 ～7／31	第25回日本ロービジョン学会学術総会	オンデマンド配信	眼科	長谷川実茄
6／15 ～16	令和6年度錦糸会関連病院会議・総会・特別講演・懇親会（鳥取大学）	米子ワシントンホテルプラザ	産婦人科	池野 慎治
7／13 ～15	第60回日本周産期・新生児学会学術集会	大阪国際会議場	産婦人科	田中あゆみ
7／13 ～15	第60回日本周産期・新生児学会学術集会	大阪国際会議場	産婦人科	池野 慎治
7／13 ～15	第60回日本周産期・新生児学会学術集会	大阪国際会議場、オンデマンド配信	産婦人科	清水奈都子
7／13 ～15	第60回日本周産期・新生児学会学術集会	オンデマンド配信	産婦人科	原 友美
8／10 ～11	第98回兵庫県産科婦人科学会総会ならびに学術集会	オンライン、兵庫県医師会館	産婦人科	三村 治
8／11	第98回兵庫県産科婦人科学会総会ならびに学術集会	兵庫県医師会館	産婦人科	原 友美
9／20 ～22	第35回日本緑内障学会	アクリエひめじ	理事長	明石 梓
9／20 ～21	第35回日本緑内障学会	アクリエひめじ	眼科	藤原りつ子
11／2 ～3	第65回日本視能矯正学会	ライトキューブ宇都宮	理事長	明石 梓
11／14 ～17	第78回日本臨床眼科学会	京都国際会館、ザ・プリンス京都宝ヶ池	眼科	徳永 敬司
11／30 ～12／1	第128回日本産科麻酔学会学術集会	大宮ソニックシティ	産婦人科	田中あゆみ
12／21 ～22	令和6年度錦糸会総会役員会・幹事会・忘年会（鳥取大学）	皆生温泉 つるや	産婦人科	池野 慎治
R7／1／23 ～30	日本周産期・新生児医学会 第43回周産期学シンポジウム	オンデマンド配信	産婦人科	河崎あさひ
R7／3／8	第43回神戸市立医療センター中央市民病院眼科 神戸アイセンター病院 オープンカンファレンス	神戸市立医療センター中央市民病院	眼科	長谷川実茄
R7／2／10 ～3／10	第59回糖尿病学の進歩	オンデマンド配信	内科	弓岡 稔貴

■学会・研究会参加実績（医師以外）

期間	学会名	場所	部署名	氏名
1 / 17	第10回病院EXPO大阪	インテックス大阪	情報システム室	中村 卓
1 / 25	医療機関労務管理担当実務者セミナー	神戸市産業振興センター	秘書室	幸田ちあき
3 / 7	令和5年度さい帯血採取従事者・ボランティア合同研修会 (臍帯血採取委員会意見交換会)	国際健康開発センター	2階病棟	三谷 育美
3 / 14	令和6年度診療報酬改定説明会	オンライン開催	医事課	福島 一志
3 / 19	令和6年度診療報酬・介護報酬同時改定説明会	オンライン開催	医事課	福島 一志
5 / 27	令和6年度明石給食施設協議会総会並びに研修会	あかし保健所 1F多目的ホール	栄養課	近藤 恭弘
6 / 14 ~15	第80回日本斜視弱視学会総会 第49回日本小児眼科学科総会 合同学会	アクトシティ浜松	眼科検査室	川原崎夏子
6 / 14 ~15	第80回日本斜視弱視学会総会 第49回日本小児眼科学科総会 合同学会	アクトシティ浜松	眼科検査室	橘 真衣
6 / 15	第22回 兵庫県診療情報管理研究会	兵庫県中央労働センター	診療情報管理室	大平 勇也
6 / 15	第22回 兵庫県診療情報管理研究会	兵庫県中央労働センター	診療情報管理室	榊 暁子
6 / 15	第22回 兵庫県診療情報管理研究会	兵庫県中央労働センター	情報システム室	中村 卓
6 / 15	接遇力アップ笑顔と心遣いのコミュニケーション〜クレーム対応のポイント	明石商工会議所	医事課	辰野友基子
6 / 15	接遇力アップ笑顔と心遣いのコミュニケーション〜クレーム対応のポイント	明石商工会議所	医事課	川上 春菜
6 / 15	接遇力アップ笑顔と心遣いのコミュニケーション〜クレーム対応のポイント	明石商工会議所	医事課	清水 花菜
6 / 15	接遇力アップ笑顔と心遣いのコミュニケーション〜クレーム対応のポイント	明石商工会議所	医事課	鳥田 未来
6 / 15	接遇力アップ笑顔と心遣いのコミュニケーション〜クレーム対応のポイント	明石商工会議所	医事課	村上加奈子
6 / 15	接遇力アップ笑顔と心遣いのコミュニケーション〜クレーム対応のポイント	明石商工会議所	医事課	高田 彩永
6 / 22 ~23	第5回 日本リウマチ看護学会学術集会	ウインクあいち	内科外来	上浦 陽子
6 / 28 ~9 / 30	2024「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修	オンライン開催	2階病棟	村上 仁奈
6 / 28 ~9 / 30	2024「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修	オンライン開催	2階病棟	山城 鈴華
6 / 28 ~9 / 30	2024「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修	オンライン開催	3階病棟	鈴木 則章
6 / 28 ~9 / 30	2024「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修	オンライン開催	3階病棟	吉田有加理
6 / 29	第11回 日本手術看護学会 近畿地区大会	神戸ファッションマート	OP室	福羅 昭子
6 / 29	第11回 日本手術看護学会 近畿地区大会	神戸ファッションマート	OP室	安尾 絵美
7 / 4	Bridge for innovation 2024 神戸	三宮研修センター	情報システム室	中村 卓
7 / 4	Bridge for innovation 2024 神戸	三宮研修センター	情報システム室	森川 輝紀
7 / 20	令和6年度 明石市看護業務連絡会代表者会	明石市立市民病院	看護部長	佐々木 愛
8 / 10	Team STEPPS 中級編	複合型交流拠点 ウィズあかし	外来管理	原田奈津江
8 / 17	第18回SSユーザー会看護部会	ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター	看護部長	佐々木 愛
8 / 17	第18回SSユーザー会看護部会	ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター	外来管理	原田奈津江
8 / 17 ~18	第15回SSユーザーシステム管理者部会およびSSユーザー会	ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター	情報システム室	中村 卓
8 / 24	第19回研究発表会	兵庫県民会館	3階病棟	山田みゆき
8 / 24	第19回研究発表会	兵庫県民会館	3階病棟	大島 莉歩
8 / 24	第19回研究発表会	兵庫県民会館	医事課	田村 秋彩

期間	学会名	場所	部署名	氏名
8 / 24	第19回研究発表会	兵庫県民会館	医事課	古結 麻未
8 / 24	第19回研究発表会	兵庫県民会館	医事課	小林 夕乃
9 / 14 ～16	専門教育プログラムⅡ 光学・眼鏡	第1セントラルビル1号館・眼鏡技術専門学校ワールドオプティカルカレッジ	眼科検査室	藤本 愛子
9 / 28 ～29	第65回全日本病院学会in京都	京都国際会館	OP室	吉岡 亨美
9 / 28 ～29	第65回全日本病院学会in京都	京都国際会館	OP室	勝原亜沙美
10 / 26 ～27	第40回日本視能看護学会 学術総会 JAON2024inNAGOYA	中日ホール&カンファレンス	眼科外来	竹下 奈々
11 / 2	兵庫県産婦人科学会 保険講習会	兵庫県医師会館	医事課	辰野友基子
11 / 2	兵庫県産婦人科学会 保険講習会	兵庫県医師会館	医事課	吉川 仁美
11 / 2 ～3	第65回日本視能矯正学会	ライトキューブ宇都宮	眼科検査室	藤本 愛子
11 / 2 ～3	第65回日本視能矯正学会	ライトキューブ宇都宮	眼科検査室	川崎真奈美
11 / 6 ～25	第72回ブラッシュアップ研修会	オンデマンド配信	栄養課	近藤 恭弘
11 / 14 ～16	第78回日本臨床眼科学会	国立京都国際会館、ザ・プリンス京都宝ヶ池	眼科検査室	飯塚 実莉
11 / 14 ～16	第78回日本臨床眼科学会	国立京都国際会館、ザ・プリンス京都宝ヶ池	眼科検査室	田中 美咲
11 / 27 ～29	看護職員認知症対応力向上研修	兵庫県看護協会会館	3階病棟	魚住 智香
11 / 29 ～12 / 1	第128回日本産科麻酔学会学術集会	大宮ソニックシティ	2階病棟	田口 真理
11 / 29 ～12 / 1	第128回日本産科麻酔学会学術集会	大宮ソニックシティ	2階病棟	村上 仁奈
11 / 30	第45回神戸中材業務研究会	神戸ポートオアシス	中央材料室	大村 弥生
12 / 13	白内障検査に関する講義依頼	神戸総合医療専門学校	眼科検査室	和 里桜
12 / 20 ～21	令和6年度視能訓練士ロービジョンケア研修会	オンライン開催	眼科検査室	和 里桜
12 / 20 ～21	令和6年度視能訓練士ロービジョンケア研修会	オンライン開催	眼科検査室	本 陽香莉
R7 / 2 / 8	第23回 兵庫県診療情報管理研究会	兵庫医科大学 神戸キャンパス	診療情報管理室	榊 暁子
R7 / 2 / 8	第23回 兵庫県診療情報管理研究会	兵庫医科大学 神戸キャンパス	診療情報管理室	佐々木瑞歩
R7 / 3 / 1	令和6年度 周産期医療事例検討会「周産期の医療安全～ヒヤリハット事例～」	兵庫県医師会館	外来管理	原田奈津江
R7 / 3 / 1	令和6年度 周産期医療事例検討会「周産期の医療安全～ヒヤリハット事例～」	兵庫県医師会館	産婦人科外来	今橋 敦子
R7 / 3 / 6	令和6年度さい帯血採取従事者・ボランティア合同研修会参加	国際健康開発センター	2階病棟	荻野 樹
R7 / 3 / 11 ～24	PRRISM WEBセミナー	Webセミナー	医事課	福島 一志

院内研究発表会・研修会

■2024年 院内研究発表会

演題番号	演題	部署	発表者
1	・外来トリアージの統一を目指して ～問診に対する不安の軽減～	内科外来	岡本麻希、御幡萌、 千徳ひとみ、川原康祐
2	・術前訪問パンフレットの見直し	手術室	藤井美月、木之下紀美子
3	・助産師相談の指導内容の検討	2F病棟	山城鈴華、和氣侑子、 山田恵美子、西尾奈津子、 原友美
4	・入院・手術オリエンテーションの見直し	3F病棟	岡田美穂、角石悠華、 坂本美幸、大塚斎史
5	・眼科検査の待ち時間短縮・	眼科検査室	松岡風紗、三輪朱音、 飯塚実莉、明石梓

■2025年 院内研究発表会

演題番号	演題	部署	発表者
1	・眼科手術を受ける小児への心の準備 ～プレパレーションへの取り組み～	手術室	吉岡亨美、勝原亜沙美、 谷村由利子、豊田拓也、 明石梓
2	・散瞳にかかる時間の短縮 ～“選ばれる病院になる”への第一歩～	眼科外来	上田真利子、西川知子、 花谷奈緒子、窪谷日奈子
3	・経膈分娩後早期入浴の有益性に関する検討 産後早期からの入浴は感染を起こさないのか、また産後うつ病の予防に効果があるのか ー入浴群とシャワー浴群の比較検討よりー	2F病棟	碓永真子、阪口彩乃、 坪井久美子、池野慎治
4	・当病棟における独自の糖尿病指導 ～血糖測定・インスリン注射手技確立に向けて～	3F病棟	山田みゆき、戸田亜紀子、 大島莉歩、川原康祐

■2024年 院内研修会・講習会実施実績

開催日	教育項目	主催	講師
2／14	人生100年時代をいきいきと楽しむために ～女性のライフステージ健康寿命～	医療の質	田中副院長
回覧	医療放射線安全管理勉強会	医療安全	放射線室 土井
3／8	術前訪問パンフレットの見直し	医療の質	手術室 藤井
	外来トリアージの統一を目指して 問診に対する不安の軽減	医療の質	内科外来 岡本
3／13	ノロウイルスの取説 ～基礎知識から処理方法まで～	感染防止	感染防止委員会 八木師長
3／21	震度5強の地震発生想定訓練	災害対策	災害対策委員会
3／27	ヒヤリハットのキホン	医療安全	医療安全管理室 三谷
3／29	助産師相談の指導内容の検討	医療の質	2階病棟 山城
	入院手術オリエンテーションの見直し	医療の質	3階病棟 岡田
	眼科検査の待ち時間短縮	医療の質	眼科検査室 松岡
4／18	あさざり病院のルーツ	医療の質	明石理事長
	あさざり病院ガイダンス		明石院長
	医療安全研修会（新人対象）		医療安全管理室
	感染防止研修会（新人対象）		感染防止委員会
	個人情報保護（新人対象）		診療情報管理室
5／31	心理的安全性	医療の質	田中副院長
回覧	薬剤の施行における注意点（新人メイン全職員対象）	医療安全	薬務室 南部
7／12	職場の元気の土台！コミュニケーション講座	医療の質	ドクタートラスト 藤居様
8／30	今HOTな感染症の話	感染防止	感染防止委員会 八木師長
9／13	情報セキュリティについて	情報セキュリティ	情報システム室 中村
10／17	接遇の基本と話し方	接遇癒し	水原道子先生
10／22	医療ガス安全研修会	医療ガス	水島酸素商会
11／29	ハラスメント研修	医療の質	社労士 児島先生

■2025年 院内研修会・講習会実施実績

開催日	教育項目	主催	講師
1 / 16	初動フローチャートの説明 消火器、消火栓の使い方	災害対策	災害対策委員会
回覧	医療放射線安全管理勉強会	医療安全	放射線室 土井
2 / 20	職場のコミュニケーションについて考える	医療の質	産業カウンセラー 松下ゆかり先生
3 / 12	新興感染症なんて怖くない！	感染防止	感染防止委員会 八木師長
3 / 13	災害訓練	災害対策	明石消防 早川様 災害対策委員会
3 / 14	眼科手術を受ける小児への心の準備 ～プレパレーションへの取り組み～	医療の質	手術室 吉岡
	散瞳にかかる時間の短縮 ～“選ばれる病院になる”への第一歩～		眼科外来 上田
	経膈分娩後早期入浴の有益性に関する検討 産後早期からの入浴は感染を起こさないのか、また産後うつ病の予防に効果があるのか ー入浴群とシャワー浴群の比較検討よりー		2階病棟 碓永
	当病棟における独自の糖尿病指導 ～血糖測定・インスリン注射手技確立に向けて～		3階病棟 山田
3 / 26	医療安全	医療安全	医療安全管理室 三谷



病 院 行 事

病院行事

1月4日	●	年始外来診療開始
25日	●	運営会議
3月21日	●	災害訓練
4月13日	●	NCPR（新生児蘇生法）
18日	●	新入職オリエンテーション
6月20日～22日	●	院外清掃
9月19日	●	災害訓練（本部設置）
18日～10月31日	●	MRI入替実施
10月17日～19日	●	院外清掃
19日	●	NCPR（新生児蘇生法）
25日	●	適時調査（近畿厚生局）
25日～26日	●	地域交流イベント 夢祭り
11月20日	●	病院立入検査（保健所）
12月17日	●	クリスマスコンサート
19日	●	吉徳会 忘年会
28日	●	納会
28日 午後～	●	年末外来休診
2025年		
1月4日	●	年始外来診療開始
16日	●	災害訓練（新入職者・近隣職員）
3月13日	●	災害訓練

その他

産前・産後教室R5.7月から再開

第1・3木曜日 ・ハローベビークラス

第2木曜日 ・ハローベビークラスwithパパ

不定期（3か月毎） 糖尿病教室 R6.1月、4月、7月、10月開催

不定期 ミニコンサート R6.12月開催



医療法人社団 吉徳会



あさぎり病院

〒673-0852 兵庫県明石市朝霧台 1120 - 2

TEL (078)912-7575 FAX (078)913-6763

<https://www.asagiri-hp.or.jp>